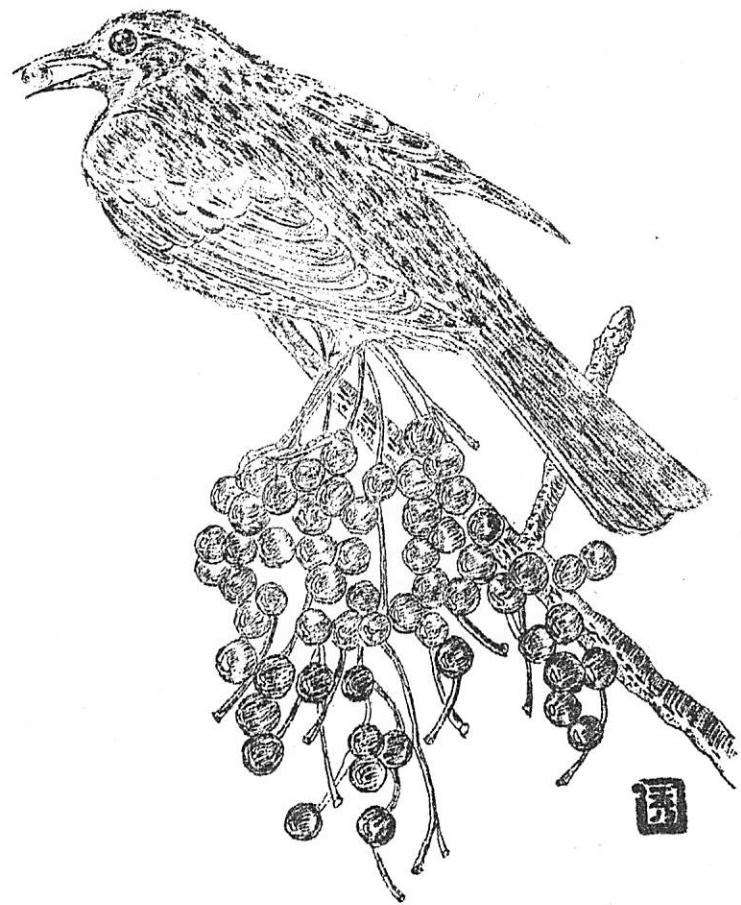


年次報告書オ一号

# つみあげ

1973-



兵庫県自然教室実行委員会編

# "つみあけ"の刊行に際して

公害が日本列島を虫食い、これに拍車をかけるように列島改造論が開発の名によせて、豊かな自然環境を次々と破壊しそのとどまるところを知らない。

都会やその周辺から自然をうばい、その調和を攢乱し続けている現状では、自然を誤解し、などり、灰色の人工社会こそ当然の自然環境としかみない子どもたちが何と多く育っていることか。

そんな中で、わたしたちは自然教室を実践してきた。ささやかごはあるが、すくにできそうなことからはじめてきた。ひとりでも多くの子どもたちが、少しひ

も自然に接する機会が得られるようにと願ってがんばってきた。

この年次報告書 "つみあけ" は、このような自然教室の実践記録です。自然教室にとって、これという指南書はありません。全国でも、ごくわずかの有志が実践はじめたばかりなのです。それだけに、ひとつひとつ実践が大切な意味をもち、その積みあげにより、さらにその上にあたらしいステップをふんで"行かねばなりません。年次報告書の "つみあけ" は、そういう意味なのです。

## 目 次

兵庫県自然教室の考え方	2
音楽隊の記録	7
美方町のあらまし	11
第1回みかた自然教室	15
毎月の自然教室へ	20
第2回みかた自然教室	24
5地区にわかれた自然教室	40
年表	4・14・21・25

# 兵庫県自然教室の考え方

1973.9.19

兵庫県自然教室実行委員会

## 1. 前提（行動の指針）

本来、子ども達の周辺には、豊かな自然のある生活環境が保障されて当然である  
精神発達上、必要かつ欠くべからざるものと考える。

## 2. 環境権

子どもにとって、豊かな自然のある生活環境を保障されることは、権利である。  
われわれは、自らの限界を努力によって拡大しながら、ひとりごとも多くの子ども達  
にその機会が与えられるよう計らねばならない。

## 3. 自然の保護

子ども達にとっては、自然が残り、さらに回復してこそ将来に希望がつなげ、夢  
をたくすことができる。自然が、今以上に破壊されずに残り、また自然の回復能力  
の限界を超えるような行為に対して、厳しく批判し、その保存を要求するものである。  
また、自然に接する方法が、決して自然を損うものであってはならない。

## 4. 指導者

自然教室の指導者は、自然のしくみを理解し、その保護を進めて実践しなければ  
ならない。同時に、子どもの認識過程をつかむ眼を確かなものにしなければならない。  
また、子ども達の権利と人権を守るために、どのように手がかかろうとも、その  
努力を惜しんではならない。

## 5. 学校教育に対する配慮

子ども達にとって、学校教育の与える影響は重大である。文部省のカリキュラム  
に対して、自然のしくみをその保護の精神にのっとって理解させていくよう配慮  
を加え、自然に接する機会がより多く与えられるよう改善の要求をしていかねばな  
らない。

## 解 説

私達の自然教室は決して奉仕活動ではない。子ども達はもちろんのこと、私達もまた、豊かな自然環境を保障され、それは憲法でいう最低限度の生活水準に含まれるものと思う。為政者が（県や市）、私達に対し豊かな自然のある生活環境の保障を義務として負うのは当然であると思う。ところが、為政者がその責務を実行しない現状において、私達は特に取り残されつつある子ども達を放置しておくわけにはいかなかった。

ところで、自然教室の考え方の示す

ところは価値感の転換ともいえる。人間を自然と対立するものと考えず、自然の中の一員として、その保護を第一義に考え、自然のしくみをこわすことなく、人間の幸せを考えねばならない。例えば、自然を元金とすればその利息で私達は生きているともいえる。しかし、元金の自然を破壊してはどうにもならない。子ども達はもちろん、私達の身のまわりに豊かな自然のある生活環境が残され、また回復するよう引きだけの努力を払っていかねばならない。

## 実 行 委 員

- (078)741-2534 稲 尾 豊 654 須磨区妙法寺宮塩原1282-3  
(0797)32-1767 角 中 透 659 芦屋市大東町13-12 大東荘210  
(0797)61-0895 三 畑 啓 一 669-11 西宮市塩瀬町名塩2800  
(0792)54-1315 工 義 尚 671-01 姫路市大塩町2196-7  
(078)732-0252 谷 口 博 次 654 須磨区養老町1丁目28-21  
戸 田 耕 介 658 東灘区田中町4丁目9-6  
(078)231-2905 橋 本 敏 明 651 葦原区中島通3丁目20-1 翠明寮  
(078)732-2995 平 井 元 明 654 須磨区大手町2丁目10-3  
(0797)22-5054 村 田 俊 一 659 芦屋市大東町8-5-315  
(078)341-9494 山 田 利 行 652 兵庫区馬場町35-2

## 年 表 (1)

極端に言えば、人間が存在すれば、そこに自然破壊は生じてくるともいえる。自然の破壊は、古代、人間が農業をいとなむようになつた頃まで"もさかのほる"ことがござるが、それはともかく、農業の技術が進み、工業の近代化が進むにつれて、自然の破壊は継続されてきた。明治の初め、村田銃が完成し多くのエゾシカを殺した。またその半ばには、日本中に鉄道がひかれ、人類の未踏の地まで自然破壊は進行していった。この頃、一部の学者や愛好家が保護を訴えたり、野鳥の会なども結成されたりしたが、当時の自然破壊は、一般の人々の認識をうながすほどに深刻ではなかった。

戦後、尾瀬に電力ダムがつくられるという計画があつて反対運動がおきた。これを契機として、全国各地の自然破壊を調べようと、1951年(昭26)に、日本自然保護協会が結成された。しかし、戦後の経済成長は世界に例もなく急速に進み、自然の破壊は目にみえてひどくなつたにもかかわらず、なおも日本の自然保護運動は、どちらかと言えば、学者と愛好家を中心とする日本自然保護協会だけであった。ところが、ごく最近の水俣病をはじめとする公害病が世に明らかになってからは、環境の問題として、各地に公害の住民団体や自然保護団体が結成され、やがては全国自然保護連合の結成、環境庁の設置、国連人間環境会議と世論の注目をあびるまでに至った。

(1970. 3 「人類の進歩と調和」をテーマに、日本万国博が開かれる。)

(ワ 東京に、全国初の光化学スモッグが発生。)

### I. ことの始まり

環境庁長官がさり配をふるつた2年前の  
1971年(昭46)からであった  
全国的に自然保護運動が盛りあがって  
きたのは、尾瀬の道路問題が起き、大石  
くすぶりかけていた。自然保護教育の動

きもそのひとつがあった。1956年(昭31)に発足した神奈川県の三浦半島自然保護の会(代表・金田平)をはじめとして、規模がアッタリ、単発でアッタリしなから、各地の自然保護団体や大学生などのグループが自然保護教育の実践を試みている。しかし、それら個々については、自然観察会などの名をもって割に数多くなされてくるにもかかわらず、単なる行事の消化に終止していることも無視できなかった。着実に成果をつみあげているのは、三浦半島自然保護の会などごくわずかであった。自然保護運動の盛りあがりに比して、自然に興味を持つ人達だけの観察会があいかわらず繰り返されてきた。

一方、子ども達周辺からは自然がどんどん失われ、かわって光化学スモッグといふ奇妙な現象も現われだした。子どもにとっては"今"が大切なのであって、その成長過程に豊かな自然に恵まれず、絶えず公害の町で生活するとすればどうなるのだろうと思えばがまんならなかつた。おとなが言うように、たとえ10年や20年の計画で自然を回復させようとしても、その間に子どもはおとなになっこしまう。生命の尊さ

や自然の大切さを知らずして成長することに、老姿心かもしれなりか少なからず不安をいたいた。そして、私達は、自然保護教育の意味そのものよりも、とにかく自然に接する機会を与えるようと考えた。

1971年(昭46)6月5日、朝日新聞の"声"欄にこんな投書がのっていた。「兵庫の北海道と呼ばれる小さな寒村ですが、ごきるだけの準備をしてみましょう。50人くらいは受け入れられそうです。山陰線(鹿駒からバスで)1時間30分、徒步10分くらいで着くところです。山にはキャンプの適地があり、テントなどの用意はできるし、宿泊希望には農家でも世話をします。今のところ交換条件は考えていません。都会の子どもたちを喜ばせたいのです。ご希望の方は、小代(おじろ)局<079697>148番へ電話して下さい」=兵庫県美方郡美方町貴田(ぬきだ)田村利雄(農業)これは、吹田市の酒井喜美子さんという主婦が、都会の子を自分の田舎へ連れて帰って大変喜ばれ、次もまた希望する子どもを連れていきたいう1週間程前の投書に共感したものだった。

その3週間後の6月27日。はじめて田村さんに電話をした。その翌日に手紙を書き、さっそく兵庫県自然保護協会や日本自然保護協会の会員に呼びかけて自然保护教育実践グループをつくり、計画を練り始めた。

はじめて現地美方町を訪れたのは7月9日の夜だった。驚いたことに、フレドーザーで山をけずり、約2千平方メートルの広場をつくっていた。「都会のふには広場がいるだろう。山の急斜面にあるこの部落にはそれがない。すぐ「に役場にかけあって作った」と言う。しまった！私達は田舎の持つそのままの味を、自然のそのままの姿を見せたかった。広場はもちろん、わざわざ特別なことはして欲しくはなかった。だが、地元の身になつて思えば、誠心誠意これから来るであろう子ども達のためにと思ってなされたのだろう。むしろ、その心に感謝して当然のことであったのかもしれない。

はじめて田村さん（貴田地区、区長）の家に着いたときは夜も9時前であったが、突然縁側の障子に勢いよくぶつかるものがあった。明りに飛んできたカブト

ムシだった。すばらしい！ 家の中にツバメの巣があり、縁からの眺めは正面に千メートル級の尾根が連なり、眼下には時に鉄砲水となって流れる矢田川を見ることができた。自然教室にとって、特別な事物や天然記念物などは必要なく、どこにでもあるというような自然が充分だった。それよりもはるかに大切なことは、その自然の中でどれだけ長く生活ができるかであり、また豊かな自然の中で育ってきた地元の人々とふれあい、言葉をかわすことであると考えていた。私達は子どもの頃、しばしば自然の不思議さに驚かされ、大きな感動を覚え、いわゆる精神発達の過程においてかけがえのない原体験を得てきた。それは、いやちの尊さを教えてくれ、自然や人間に深い愛情をつちかわしてくれた。広場やキャンプ場はそれらを助ける2次的手段であるだけに、そのために自然がこわされては、元もよもない。

地元の受け入れ態勢は急速に進み、私達の準備をはるかに上回るものだった。議論よりも実践によって多くの事例をつくることが大切だと始めたのだが、子ども

を集めることはなかなかむずかしかった。長田区のある住宅ビルに行ったとき「私は昔、学校の教師をしていたの。私の学生の頃は、よくこんな事を論文にしてたわ。どうせあなた方もそのつもりなんでしょう」と、あっさり断わられた。兵庫県自然保護協会の名刺を差し出したとき「こんなものはどうにでも作れるんですよ」と、ストレートに言われこの匂いが出来なかつた。しかし、協会の理事の紹介で長田区南部の自治会に行ったとき、2人の応募があった。けれども、2人ではどうにもならない。「趣旨もけっこうだし1週間6千円とは安いのだが、親元から1週間も離そうとする人がいない」と言うのが、ニニの人の弁であった。しかた

なく、子どもを集めることがあきらめた。が、どうしても美方のあの熱のこもった受入れに答えるために何らかの形で実施しなければならないと思った。そこへ、和歌山の高野山へ合宿する予定であった神戸市内の2つの中学校の吹奏楽部が協力しても良いということになった。『演奏旅行』という名目で、私達の計画に乗ろうというものだった。「自然を理解してこそ、音楽も良いものができる」という田尻先生の話しだった。それが決ったのは7月23日。あとは夢中で、準備に打ち合わせに追われ、どうにかこうにか実施にこぎつけたというのか、11つわりのないところだった。

## 音 楽 隊 の 記 録

1971年(昭46)8月27日から29日まで行なわれた『演奏旅行』という名の自然教室に参加したのは、神戸市立太田中学校吹奏楽部および同駒ヶ林中学校吹奏楽部とバトン部の55名。引率教師9名。自然保護教育実践グループからは、兵庫県自然保護協会の川畠啓一、

平井元朗、東条利文、山田利行、日本自然保護協会関西支部の加畠兼四郎、山田清子、和歌山大学自然保護の会の杉山敬三、田中みち代、中川千尋の9名であった。お世話をいただいた農家は14軒であった。中学生の参加費は2500円。そのうち500円は『演奏旅行』に対する

補助。また別の500円は部費でまかな  
う個人負担は1500円だった。宿泊先  
の農家へは3日間で1500円のお礼を  
した。期間中は大変残暑がきびしく今夏  
の最高気温が"30"と"うぐらう"あった。  
《作文から》

3年 西光利子

おいしい空氣。山に囲まれた町。私は  
遊びことばかり考えた。2日目の朝、小  
代小学校を見たとき、なぜか私の描いて  
いたものがこわれていくような気がした。  
それは私達の学校よりも美しくてきれいで、  
規模が大きいからだ。パレードのとき、神戸よりはずっとせまい町なのに、  
とってもつかれた。それは緊張していた  
からかもしれない。昼食の後、川に行つ  
たときの冷たくきれいな水が何よりも印  
象に残った。その夜、山で行なわれたフ  
アイラー。中1の時にしたより少しもの  
たりなかったけど、なぜか心にひかれる  
ものがあって楽しい想い出のひとつにな  
った。翌日、帰りたくなさそうな顔があ  
っちこっちに見え、しぶしぶバスに乗り  
込んだ。「さようなら」という声が、つ  
ぎからつぎへと聞こえてくる。私は、お

もわす「また来年もくるよ」と大きな声  
で言った。

田当均

8月27日からの3日間。この3日間  
は、ぼくにとって、とても有意義で樂し  
いものとなった。ふろで飲んだ水。ズボ  
ンのまま泳いた川の水。とにかく、水が  
一番印象に残った。なにしろ、水がおい  
しく冷たい。

向こうの人々は素朴で明るく、とても  
楽気にことばがれて、親しみやすかった。  
帰ってから、何度か手紙を出したけれど  
全部返事が返ってきた。そして、その手  
紙には「また来てください」ということ  
は必ず書いている。これを読むたびに  
目に涙をうかべて言ってくれたおばさん  
の最後のことばが思い出される。

「また、きやんせえな……」

3年 梅田和美

兵庫県の北海道といわれる美方地方へ  
演奏旅行にいった思い出は、私の胸に深  
くきざまれている。今年は、コンクール  
に出すに演奏旅行に力を入れて、夏休み

の練習にもはげんだ。合宿のようなものでもあった。

景色がとてもきれいだった。緑が青々としていて、わりかし大きな川がその緑の中にはいっていた。川には11つてみると、夏だというのに冷たい水だった。美方の山中学生が、毎日こんな所で遊んだり、勉強したりでいるのかと思うと、うらやましくなってきた。私たちが泊めてもらったお宅は、おじさんおばさん夫婦に6年生と3年生の女の子。そして、ゆんばく小僧の幼稚園に行ってる源ちゃんです。源ちゃんは、私たちが行くとすぐ友達になって遊びました。3年生の子とも遊んでいましたが、6年生の瑞穂ちゃんという子は、無口なせいかあまりしゃべりませんでした。でも、手紙は書きました。おじさんは、役場に勤めていたので、私たちがパレードをして役場まで行くと、暑そうなくたちを見て、冷たいものをと、電話でおばさんにたのんだという。それを聞いて、2日も泊めていたのに、そんな心づかりまでと思いつかう。ありがとうという気持ちでいっぱいでした。村の人の方でキャンփファイアーも

したし、神社での演奏もやったし、楽しいことばかりで書ききれません。神社で演奏して11たときは、おじさんがテープに録音を取っていてくださいったので、自分たちの演奏がどんなだかよくわかった。

こんな11っぽいの思い出をかかえて、バスに乗りこみました。村の人たちと別れるのがさびしく、目がしらがあつくなるのがわかりました。村のおばさんご、泣いている人がいました。私も、その人を見て、よけいに目がしらがあつくなるを感じました。

はじめて経験する私達リーダーも農家の人は大変というよりも、つら113日間でした。山の斜面にたつ農家を連絡にどれほど行ったり来たりしたことか。打ち合わせのために、午前3時に寝て6時に起きるというきびしい毎日でした。自然教室の意味も内容も、それどころなく、ただ何とかして無事やり上げようと思ひだけだった。ひとりの指導者も11なく、全くの試行錯誤だった。

しかし、その中で"もいくつかの成果があった。当初の小学生が集められなくな

つて、対象が中学生になったとき、中学生なら楽だと思っていた。ところが、彼らは現地のようすに慣れると、自由奔放に遊びまわっていた。都会では、もう中学生になったのだからと必要以上に「おとな」であることを強要され、それが「おとな」のような行動をとると、まだ子どもではないかと叱りつけられる。そして、君たちは、おとなと子どもの間にあるといふ言葉だけを押しつけられている。

受験と悪化する生活環境の谷間で成長してきた中学生は、この美方の自然の中で、すっかり子どもになりきっていた。過ぎ去った「子どもの時代」に味わえなかった自然を、今「中学生」になって味わっているといえば大きさになるかもしないが、少なくとも私達は、もっと小さな頃から自然に接しておくべきではないかという疑問を持った。子どものように遊びまわる中学生を、かわりらしくも思ったが、これでいいのだろうかと考えさせられた。

### 《美方からの便り》

家に泊った子ども達、喜んで一生忘れる事ができないほど、楽しかったと便り

くれました。私の事のようにうれしく思います。こんな山の奥に住んでいて良かったなあって、つくづく感じました。

また、来年もきっと来てくださいね。お待ち致します。子ども達をつれて。冬も良いですよ。雪がたくさん降って、スキーが、また楽しい。枯木に雪の花が咲くのも見てもらいたいですね。ぜひ、もう一度おいでくださいませ。

(小林勝治)

## 自然保護討論会

中学生の帰った29日の午後、貫田公会堂で、「過疎対策と自然保護」をテーマに討論会を行った。討論会には、私達9名の他、貫田のおじさん、おばさん15名、美方町からは森脇勝吉町長、中安富士男町議会議員、中村観光協会長、観光係から井上昌氏、商工会の観光部門の代表として辻見氏が出席。

町長は、自然保護について知らないから自然を破壊するのではなく、生活のためには、自然がある程度を破壊するのもやむを得ないという。また、都會の人には、こんなところへやってきては、自然を残

せと言われるが、ムシがよすぎるのと違いますか、という。しかし、私達は長い眼で計画を考えて欲しい。あとで自然が残っていたらと思っても遅い。何とか自然を残す方向で考えてほしい、というほかしかたがなかった。

とにかく、この中学生の自然教室も、自然保護討論会も無我夢中だった。田村区長さんは、病人がでなくて良かったと言っていた。計画の変更こそあったが、この自然教室をやってのけた事が、以後の重大な踏み台になったと思う。

## 美方町のあらまし

美方町は兵庫県の北西にある氷ノ山の北側で、矢田川の上流にあたる純農村である。総面積は約67.6km<sup>2</sup>で、その約83%が山林におおわれ、階段のような耕地がほとんどで、その間に22地区の集落がちらばっている。現在、人口は約3900人である。

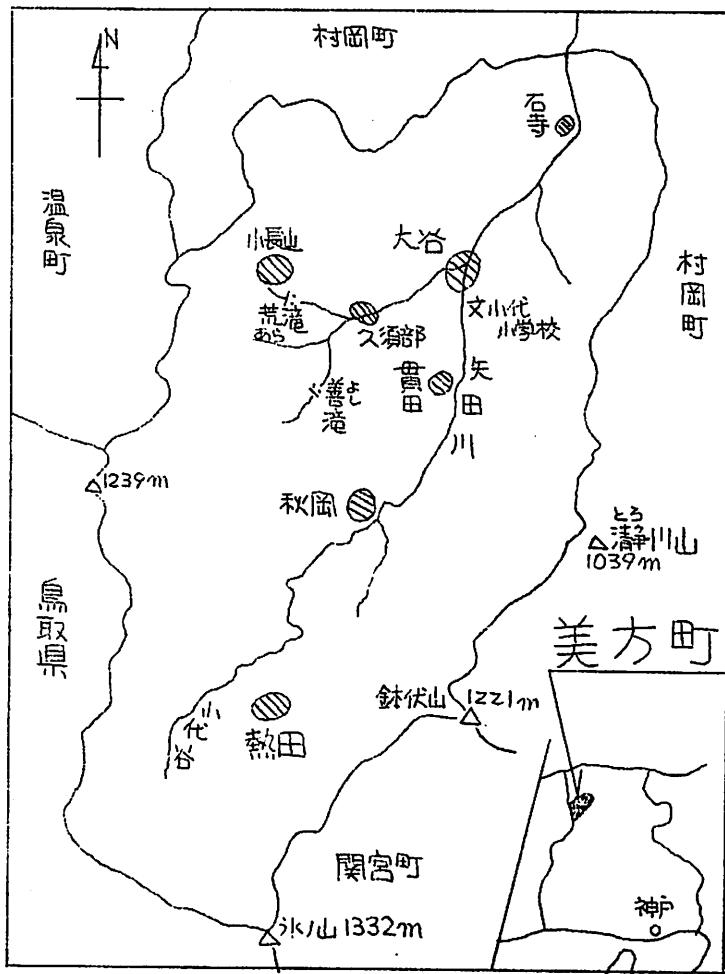
この地の地形は、東・西・南の三方をおよそ1000m前後の山地に囲まれた凹地で、最古は「小代郷」と呼ばれ、藤原氏家来の落人が住みつき、以来、時代が下るにつれ、平家の落武者なども加わって次第に村落の形を整えてきたらしい。

明治21年町村制が施行され「小代村」と名づけられ、昭和30年に町村合併促進法に従って、となりの射添村と合併し「美方町」が誕生した。しかし、事情に

より射添村は村岡町に境界変更されて分かれ、旧小代村の姿で美方町として現在に至っている。

気候は、山陰型気候といわれ、年間の降水量は約2300ミリ、熱帯性気候なみである。梅雨・台風・冬期には人々の活動は著しく制約を受け、平均気温は、1月3℃、8月27℃となる。特に冬期には山頂部で2~3mの雪が積もり、農作業など全くできないので、酒造りや、工場労務など出かせぎに生き、生計の大きな助けになっている。

しかし、スキーには県下でも最も良質の雪がなく、古くから小代スキー場などが開発され、今日では、国道9号線の開通や町道の整備など、交通もしたいによくなって、京阪神間からのスキー客が年



二とにふえつつある。

冬期は出かせぎに行く人約18%もいるが、春から秋にかけては農作物を中心とし、米・いも類・豆類・野菜類などを生産している。また、牧畜もかなりさかんで、牛・にわとりなどを飼育している。特に牛は「但馬牛」として古くから

有名である。

しかし、経済的には貧しく、近年、都心地へ転出する人がふえ、過疎化の波をもろに受け付いたが、最近、ようやく落ち着きかけてきたそうだ。

美方町の自然は、まだ本格的な科学調査が始められた段階であるが、例え

ば"ブナ、ミズ"ナラなどの落葉広葉樹林の中に常緑のスキ"の自生する原始林や、ブナヒナツツバキの混生する自然林など日本でもめずらしく、年中の最大美観である。また、サゼンソウ、リョウメンシタ、サンカヨウ、シャクナゲなど約500種以上、イヌワシをはじめ、近年、人里まで出没するニホンザルやイノシシなど、300種ぐらの動物が生息している。

代表的な氷ノ山・鉢伏山・扇ノ山など洪積世以降の上昇運動をへて、中心噴火の火山活動があたり、日本の第4紀火山の特徴をそなえた型があり、壮年期に入ったとみられる。すべての渓谷には水量もあり、美味で冷たい。

このように、人工林も比較的少なく、むかしながらの自然環境は、戦中、戦後林野庁の手によるブナ林の伐採により、

破壊されたとはいえ、まだ生物の生態学的な研究には、複雑な気象や地形などとともに、その自然保護上、重要な地域として評価されつつある。

なお、これに先立ち、美方町の約3分の1は、昭和44年に「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」の指定を受け、残りは全域が兵庫県立自然公園に指定され、その自然環境が注目されている。

われわれ「兵庫県自然教室」のフィールドの最適地のひとつに美方町を選んだ理由も、公害に悩み、ほんとうの自然を知らない子どもたちに、自然の姿に触れさせ、くらし、その自然とともに調和して生きねばならぬ人間の社会との出会いに気づかせ、自然保護の尊さを学ぶに秀れた自然環境を見出したところにある。

## 1972年・春

初めての自然教室(演奏旅行)を何とかやり終えたあと、それぞれの自然保護団体の活動へと移っていった。私たちは兵庫県自然保護協会の活動を続けながら秋に貴田地区の秋祭りに出かけ、正月に

は、打ち合わせをかねて冬景色を見に行ったりしてはいたが、しばらくの空白があった。この年の夏の準備らしいものが始まったのは、3月30~31日の美方町下見からであった。

## 年表 (2)

1971年(昭46) この年は、四国の石鎚山スカイラインや尾瀬の道路問題などで、大石環境庁長官が全国を走りまわり、自然保護の年といわれた。

4月頃 自然保護教育実践グループを思いつく。  
4. 18 兵庫県自然保護協会が結成される。於・神戸市立須磨水族館。

6. 5 田村利雄さんの投書が、朝日新聞に掲載される。  
(6.13 全国自然保護連合が結成される)

6. 27 初めて田村さんに電話し、この日より美方との接触が始まる。  
7. 9 初めて美方町へ行く。(~10)

以降、自然教室の計画の立案、子どもを集めとその失敗、神戸市の2中学校の協力、兵庫県自然保護協会・日本自然保護協会の会員有志・和歌山大学自然保護の会の協力などが取りつけられた。美方町行き(打ち合わせのため)7.19・8.5。

8. 27~29(2泊3日) 自然教室(演奏旅行)一美方町

8. 29 自然保護討論会。於・美方町貧困公会堂。

以降、しばらく空白状態。

1972年(昭47) 佐藤内閣が倒れ、田中首相の日本列島改造論が世論をにぎわし、大企業の土地買いしめがはじまった。

5. 3~5 美方町へ打ち合わせ。4日夜、森脇町長と懇談。5日、小代小学校にて、自然保護講演会。

(6.5スウェーデンのストックホルムで初の国連人間環境会議が開かれる)

7. 23 自然教室(美方町)の説明会。於・神戸市婦人会館。

8. 4~8(4泊5日) 自然教室——美方町(第1回みかた自然教室)

8. 10~11(2泊3日) 自然教室(演奏旅行)一美方町

8. 23~24(1泊2日) 親と子の自然教室——佐用郡南光町船越

自然教室は、子どもたちに豊かな自然に接する機会を与えることを目的としていたが、同時にそのフィールドのある場所、つまりここでは美方町の自然を残していくにうとすることも当然であった。しかし、これは一方的に私たちだけができることがではない。町長らとの討論会にもあったように、都会人の好き勝手な自然保護ではなく、地元の生活を保障するものでなくてはならない。それがためには、行政単位つまり美方町全域まで自然教室を拡大していく展望を持つべきと考えた。5月4日夜、森脇町長と懇談会を持ち、私たちは「今後、美方町と協力して自然教室を実行していきたい」と申し入れたが、「貴田でやっておられるのはよく知っているが、あなた方が町に何を求めているのかよくわからぬ」ということだった。私たちに、これという展望がないと具体的な話し合いはできなかった。翌5日、川代小学校講堂で兵庫県自然保護協会主催の自然保護講演会「自然保護はなぜ必要か。朝日穂武庫川女子大学教授」「過疎を防ぐ自然保護・細見彬文育英高校教諭」が行なわれた。あいにく田植え

の真最中で40名ぐらいしか集まらなかつたが、「出かせぎを抜きにしては生活が考えられぬ」「青年の将来に不安がつきまとい、それに対してこの町の補償が問題になる。青年が思うことを実践していく条件、環境を与えねばならん」「企業の力を借りてごとも、観光開発をしていくべきだ」など熱した質議がなされた。

しかし、私たちにとっては「過疎」という問題はあまりにも大きく複雑であつた。自然教室の実践のくりかえしの中から、じかに地元の人々の心に触れ、生活に触れていくしかなかった。自然教室の楽しさとエネルギーが、地元の人々の心の支えになれば、何らかのきっかけになるのではないかと考えた。

## 第一回 みかた自然教室

兵庫県自然保護協会の「お知らせ」や新聞・テレビで、また神戸市立霞ヶ丘小学校教諭稻尾豊氏の協力などで、35名の小学生（3年生以上）、2名の中学生が集まり、実質的な初めての自然教室が美方町で行なわれた。8月4日から8日までの4泊5日で、参加費は小学生で、

5000円、中学生が6000円。交通は国鉄と路線バスを利用した。指導にあたったのは、稻尾豊教諭のほか、伊東美代子・去来川知子・尾本景子・角中透・川畠啓一・平井元明・村山公子・山田利行の8名。11ずれも学生であった。

4日、出発の日、「うちの子は親と離れて泊まるのがはじめて……」「ひとりで参加しますがだいじょうぶですか」という心配もたちまち消えた。三宮と明石から分かれ乗り込んだ子どもたちは、始めのうちは比較的おとなしかったが、姫路をすぎてからにわかに騒がしくなり、ハ鹿からのバスでは「静かにしよう」と吐ることになってしまった。

《作文から》

魚崎小3 吉田一雄

夏休み前から楽しみにしていた自然教室の日が来ました。三ノ宮駅では、みんな大きなりュックサックをせおい、すごくはりきっていました。ジーゼル機関車の急行やバスに乗って貴田に行きました。ぼくたちの班は、村尾徳治さんの家にとめてもらいました。

村尾さんの家に行って一番最初に発見

したのが、大きな大きなスズメバチのすです。直径がだいたい3センチぐらいで、そこに10センチぐらいいの川さいのか2~3つありました。そうかんきょううごのそりでみると、すはなみ線がいって、中央の入口は5センチぐらいでどうやのようになっていました。11つた11すの中には何びきいるのだろう? 夜になると物音ひとつせず、二がね虫やせみがまとからほりってきます。そして、夜空は町よりうんと星が多く光りかがやいてとてもきれいでした。

第2日目は吉瀧へ行きました。山をふたつこえ、そのふもとに吉瀧があります。吉瀧は上に大きな岩がたくさんあります。その岩の間から水が出て瀧になっています。下から上の岩を見ると、今にもおちそうです。そんなところに、瀧のおくに、小さな堂のようなものもありました。瀧の中へは11って、水にうたれました。とってもいたかったけれど、気もちがよかったです。さっぱりしました。すぐ近くの谷川の水はのめました。すごくつめたくて、おいしかった。

第3日目は、岩川ではんごうすいさん

をしました。ぼくたちの班は、はんごうを2つもっこいきました。まきを集めるのにいろいろなくろうをしました。高いがけを、はしごごのぼりぶりし、せっせとかれ木を集めなければなりません。ごほんがたきあがって見ると、そのうちのひとつかおかゆになってしましました。でも、よくはたらいたあとなので、とてもおいしかったです。そのあと、谷川で泳ぎました。小さな滝の下は、ぼくのせのかたぐらいままであります。もう少し上流に行くと、また小さな滝があります。その滝の下は、ぼくのせではたりなかつた。

第4日目は自由行動のつもりだったけれど、美方町の小学校へ行きました。小学校の先生に校内をあんなにしてもらいました。図書室でいろんなことを話してもらいました。プールでも泳がせてもらいました。とっても楽しく、あっと言う間に5日間がすぎてしましました。

美方町の空気、けしきはとてもきれい、こうかいもなく、おもいっきり走り回って遊べたし、もう少し長くいたいよう気がしました。 (おり)

少しこも経費を安くしようと思い、私達リーダーは、部落に2人の当番をおいて約2キロ程はなれた山の上の庵屋に泊ることにした。朝夕の飯をつくり、昼の弁当をつくり、食料の買出しに、下り40分、上り50分の山登りをしなければならなかった。また夕方にはブユにやられ、腕や足が倍にもはれあがるなど大変な目にあった。

一方、子ども達は1班3~9人で6班にわかれ、そのうち女の子ばかりの班と女4人、男2人をませた班をひとつずつ作った。

昼間は、滝に行ったり、はんごうすいさんをしたりしていましたが、朝や夜は子ども達が自分達の思うように遊んでいた。小遣いを使いはたして花火を買い、私達の判断をちゅうちょさせられることもあったが、それ以上に子ども達にとって、街には花火を楽しむだけの夜の暗さがなりのかもしれません。

吉滝リーダーがヒキガエルを見つけた。そして、それをめぐってにわかの論議がおきた。「持って帰ってもいいですか」「食いたい」「絶対に殺さへん」と

という子ども。「ぼくらは自然保護協会のする自然教室に来たからもって帰ったらあかんと思います」という子どももでてきて私達をあわてさせた。子どもにとって、自然保護とは持って帰って良いか悪いかの二者択一であるらしい。そしてその解答を今、判断せよと要求してくる。しかし、私達は変に理屈だけの子どもの自我をおさえてまで動物を取ってはいけないとはいえないかった。カエルに直接手で触れるような感動と体験（原体験）が欲しかった。といって、むやみに取っても良いというのはむずかしが、自然の中にはいってこなうとする子どもの心に創造性を先りせてしまうことはしたくなかった。このときの解答は次のようだった。「自分で飼う自信があるなら持って帰っても良い。でなかったら、はなししてやりなさい」結局3年生の男の子は持って帰った。が、泊っていた農家で逃げてしまった。私達は考えさせられた。このようなフィールドであれば、持って帰っても逃がしてやる場所がいくらでもある。再び反省し、考え方を改める。ところが都会であれば、逃げれば住むところ

がなく死なせてしまうことになる。

第4日目の川で遊んだ時もこんなことがあった。みんなで魚つりをした。何も釣れなかつたのだが、観察記録に「自然保護協会の人がこんなこと（角つり）をして良いのでしょうか？」と書いていた子どもがいた。子ども達は、公害とか自然保護というようなことは、何の抵抗もなく、そのことはけ意味するままストレートに口に出していく。私達は自然教室を通して、初めて本気で自然の保護を考えさせられるようになった。子ども達と相対して、自然保護の問題にぶつかるとき、それは具体的な多くのケースに対する判断と実際の行動を要求され、ときには二者択一の形式を取ることになる。

4泊5日を経験した子ども達は、神戸へ帰る朝「帰りたいけど、帰りたくない。帰りたくないけれど、帰りたい。変な気持ち」と言っていた。目を赤くした子がひとりいただけ、何の事故もなく病気もなくホッとした。木から落ちて腕を折るぐらいのことはあってもしかたがない。それだけのびのびと自由に遊べばいいとは思っていたものの、やはり事故のない

ように、病気のないようになると氣の張りつめどおしだった。とにかくみんな元気だった。前年と同じく、1度の夕立ちもなく夏の暑い毎日だった。日中はへとへとなりくら疲れたにもかかわらず、5時や6時に起き、朝早くから神社で遊んだり、ラジオ体操をして私達をおどろかせた。空気と水のきれいなこともあってか、回復力が非常に早かった。私達リーダーは先ほどの庵屋に根をあげて、最後の2泊は子ども達と一緒に部落ご泊まることにした。

### 自然教室(演奏旅行・2回目)

前年に続いて神戸市の駒ヶ林中学校、太田中学校に鷹取中学校が新しく加わって自然教室(演奏旅行)が美方町貴田で行なわれた。中小学生の自然教室が終わって中1日おいた8月10日から12日まで2泊3日の期間で、参加した中学生が100名、引率の先生10名、私達リーダーは、角中、川畠、平井、山田の4名で総数114名であった。1件3~10名で14件の農家に分宿した。参加費は3200円で、うち400円は神戸市の

補助を受けた。

演奏会を小代中学校で行なったほかは前年とほぼ同じ日程であった。ただ印象に残ったのは、おもに小学生の世話をした直後だっただけに、中学生が大変わとなっぽくみえた。

### 親と子の自然教室

#### ——佐用郡南光町船越——

4泊5日の子どもだけのみかた自然教室に対し、8月23日から24日までの1泊2日、親と子の自然教室を兵庫県と岡山県の境にある船越山で行ない、宿は瑠璃寺にとった。参加費は、おとな1800円、子ども1600円で4才の児童から中学生まで親子とも41名が参加した。世話をあたったのは、稻田美智子、山田利行の2名。千種中学校(宍粟郡千種町)の内海功一先生の助言をいたぎ自然教室を展開していった。

別に深い思慮があったわけでもなく、ただ、みかた自然教室に参加できなかつた小学2年生以下やおかあさんにも自然に親しむ機会があればと思って企画したものだった。1泊2日で、かつ路線バス

を利用して現地集合をとるという気軽な計画であったが、反面夏休みの子どもへのサービス的傾向が強く、自然を理解しようとすらだけの姿勢はあまり見られなかつた。もちろん、私達の側もその準備

が悪く、いわゆる行事を消化しただけともいえる。期間が短くなれば、それだけ自然観察に対する知識と技術が指導する側に必要となってくるといえるかもしれない。

## 毎月の自然教室へ

1972年(昭47)9月15日、自然教室発表会が、雨の中神戸市立児童文化会館で行なわれた。この年8月4日からのみかた自然教室に参加した子どもたちとそのおかあさん、おとうさんが約60名集まつた。スライドをまじえながら楽しい思い出や反省をした。来年も絶対美方へ行きたい!という子ども達の元気なようすに私達は胸をなでおろすとともに来年の美方ゆきまで、毎月1回程度の自然教室を実践していくことを約束した。

六甲山を中心にその西へ東へと自然教室が企画された。11月5日は宝塚の蓬萊<sup>ほうらい</sup>峠へ。12月3日は須磨の多井畠へ化石の勉強に。年が明けて、2月4日、六甲山へ樹氷を見に行く予定が雨。3月4日に再び六甲山へ。4月15日は浜甲子園へシギ・チドリを観察する予定だったが

これも雨で中止になった。結局、9月以降発表会を除いて3回の自然教室を実践してきた。いつも20名程度の参加者だったが、みかた自然教室に来た子どもの弟や妹がふえ、その友達も次第にふえてきた。「子から孫へ、孫からひ孫へ」というふうなふえ方だった。また、なじみの顔がれ、つまり常連もでてきた。ところが、日曜日には学校で「父親参観」があり、塾やピアノのレッスンや剣道などがあつて参加できなければ子どももいた。自然教室を通して、意外に忙しい子どもたちの姿を再認識させられた。

美方での宿泊をともなう自然教室と、日帰りの自然教室とはずいぶん勝手が違つた。集合と目的地へ行くために時間を大きく費やし、現地にいるのは3時間程度に制限されてしまう。さらに加えて、

リーダーの側で、充分に自然のしくみについて指導するにはかなり力不足であった。まずは自然に親しむ機会をつくることが大切として実行しあげたもののその発展段階で、指導することのむずかしさに直面することになった。子どもに

知らせるハガキの文にしても、自然観察のパンフレットにしても老え込んでしまうか、でなければ適当にすませてしまうことになった。しかし、そうしながらではあっても、回を重ねるうちに次第に子どもと接する方法が身につけてきた。

## 年表 (3)

1972年(昭47)

9. 15 自然教室発表会。於・神戸市立児童文化会館。

このころから、兵庫県自然保護協会に少年少女部を設けてはとの動きが始まる。

10. 8 100年に1度のジャコビニ・ジンナ一流星雨で日本中に觀測熱。  
しかし、天候も影響して肉眼では見えなかった。自然教室はこのことをニュースにのせた。

11. 5 自然教室・蓬莱峡(宝塚)  
(ほりゅうじき)

12. 3 自然教室・多井畠での化石の勉強(神戸市須磨区)

1973年(昭48)

2. 4 自然教室・六甲山登山 — 雨のため中止

3. 4 自然教室・六甲山登山(芦屋～六甲山頂～有馬)

3. 25 美方町への下見バスく日帰り>

4. 15 自然教室・浜甲子園のシギ、チドリ観察 — 雨のため中止

このころ、兵庫県自然教室育成会の結成準備が進む。

## 春の美方町ゆき

一方、1973年（昭48）3月25日、日帰りではあったが、美方町の下見と称して貸切バス1台を走らせた。美方町をおかあさんやおとうさんにも知ってほしいと思うくらいがある一方、さらに重要なこととして、自然のしくみを知るには同じ場所の四季の移り変りが大切だと考え、テストケースとしてこの春に行くことになった。

折りしも3月も末というのに、かなりの雪にめぐまれ、雪だるまとつくったりにわかスキーをしたりで、楽しい一日だった。現地にいたのが3時間と大変短かったが、長期間ある夏休みに対して、秋冬春の美方町を訪ずれる方法を今後とも検討していく必要があると思う。

参加者数40名。参加費は子どももおとなも1800円。

## 兵庫県自然教室育成会の発足

1971年8月の自然教室（演奏旅行）は自然保護教育実践グループという団体をこしらえ、1972年8月のみかた自然教室は兵庫県自然保護協会が主催して

きた。そして、それらの成果の中から、翌9月には少年少女部を協会内に設けてはとの声があった。そして、1973年（昭48）5月5日（子どもの日）に、兵庫県自然保護協会の姉妹団体として、兵庫県自然教室育成会が誕生した。

## 一日自然教室のやり方

その後、5月13日には西宮の甲山の鷲林寺で。6月24日は尼崎の武庫川を。7月8日は神戸市総合福祉センターで子ども会議をした。甲山と武庫川は40名ほど集ったが、子ども会議では100名にもなり会場からあふれてしまった。尼崎から明石まで約11範囲から集ってくるため、第2集合地をつくって交通などの安全に備えた。参加費は取ったり取らなかったりしたが、せりせりパンフレット代として50円までだった。ところで参加してくる子ども達が40名もあると観察が非常にやりにくくなる。リーダーの指導力不足もあって、単なるハイキングのようになってしまふことが多かった。

一日自然教室では、短い時間でフィールドが限られてくるので、今回は川の自

然、次回は谷の自然など"とテーマを決めてすることにした。が、それは良かったのだが、全く思考錯誤の状態"であった。ただ、自然に接するときの最も基本的なマナー、例ば"ゴミは家まで"持ち帰ること"あるとか、探集をしてはいけないと"うようなことは指摘した。

こと"も会議とは、「自然とはどう"いうものか」をメインタイトルにして、1年間(前年の9月から7月まで)の自然教室で"学んだこと、体験したもの整理したり、反省をして次への足がかりをつくろうとするもの"であったが、今回に限っては、1カ月後のみかた自然教室に参加する目的をもって最近に入ってきたものが"圧倒的に多かったので"、現状をつかむ意味で、遊び場について話し合った。

《ところが》これらの自然教室は多くの反省すべき点を含んでいた。当時のリーダーは兵庫県自然保護協会の事務局員としてその事務処理にあたり、そのわざ"かの時間を利用して自然教室の計画を進めていた。もちろん言うまで"もないが、本業はサラリーマンや学生"であった。自然教室の前日は徹夜することも度々あり

パンフレットの内容に頭をかかえ、時には雨がふって中止になってくれれば"と思うこともあった。

しかし、そのときの苦労は今、この年次報告書を作成している頃にはすっかり影をひそめてしまった。今では尼崎から姫路まで"の5地区と中学生部の6つの自然教室を1カ月で"消化しなければならぬのに楽しくてならなくなってしまった。その理由はいくつかの私産の見当違いを発見したことだ。ひとつは、私達が必要以上に事務に追われて、研究(学習)活動が"おろそか"であったことがあげられる。もうひとつは、リーダーの団結"である。他人まかせにせず、経験のない事務でも、自然の知らなかつた分野"でも積極的な姿勢が求められる。こうした状態"はじめリーダーひとりひとりが自立し、共通のテーマを求めて団結していくことが"できる。安易に既成の野営技術を導入するのではなく、真に自然保護のための啓蒙と教育のために、なり知恵をだしあつていかねばならないことに気が"ついた。せ"いなくて便利な生活習慣から抜けで"ることが自然保護の道ともいえる。

## 第2回みかた自然教室

《実施の概況》 第2回みかた自然教室 (1973年8月4日から8日まで)

説明会 1973年7月22日(日)

於・神戸市須磨公会堂

300人収容できる公会堂が満員になり、大変にぎやかだった。

参加費 小中学生とも、7600円  
(申込時に3000円、説明会  
当日4600円の分納にした)  
(内訳)

宿泊食事代 4000円

\*1泊3食を千円として4泊  
リーダーの宿泊等代 650円

貸切バス代 2250円

\*全但バス4.5万円で延6台

事務費 400円

保険代 300円

\*国内旅行傷害保険、百万円

募集方法 新聞の催し欄の掲載

NHKテレビのお知らせ

兵庫県自然保護協会の機関紙

募集要項印刷物2000枚

参加者数 118名(男85・女33)

病気で休んだ3名は除いてあるので実質の数。

天気図の学習会 7月26・30・31

日の3日間の午後3時間。6名が  
参加しかなり書けるようになった  
のだが、美方町ごとの天気予報係・  
有線放送係は日程のあまさから実  
現しなかった。新聞係は“せみの  
声”という愛称をもって実施され  
た。

リーダー(指導者) 36名

内訳は、大学生8名・公務員や会  
社員9名・教員3名・高校生16名。  
高校生は西宮市の県立鳴尾高校の  
生物部と地学部が主。

参加したのは、小学3年生から中学2年  
生まで。( )内は女子の数。

中学3年 0

2年 1 (1)

1年 10 (1)

小学6年 39 (10)

5年 32 (8)

4年 24 (10)

3年 12 (3)

2年以下は募集せず

## 年表(4)

1973年(昭48)

- 5. 5 兵庫県自然教室育成会の創立総会 於・神戸市婦人会館
- . 13 自然教室・甲山の薙林寺(西宮)
- 6. 24 自然教室・武庫川の尼崎側河岸(尼崎)  
—6.17雨のためこの日に実施—
- 7. 8 こども会議「遊び場について、他」 於・神戸市総合福祉センター
- . 22 みかた自然教室の説明会 於・神戸市須磨区公会堂
- . 26・30・31 天気図の学習会 於・神戸市婦人会館
- 8. 4~8(4泊5日) 自然教室—美方町(第2回みかた自然教室)
- 9. 9 しうばんば スライドを中心に近藤浩文先生のお話  
ありんこ 布引~リエンティクロス~森林植物園
- . 16 のこのこ 保久良神社↔金鳥山↔風吹岩↔横地  
どんぐり 中山~転法輪寺~高塚山~太山寺  
つくしんぼ 東坂~書写山頂~刀出
- . 19 第1回実行委員会 於・兵庫公会堂集会室
- . 30 第1回定期総会および自然教室発表会

8月4日 朝、西宮・神戸・明石・姫路から貸切バスに乗車。午後2時半、美方町貴田着。突然、雷鳴とともに激しい雨がかかる。突然、雷鳴とともに激しい雨がかかる。約1時間のち、陽光がさし雨はあがった。子どもたちは大そうおどろいたらしく、感激の募明け

となった。この日は村に来れるため、特別に予定なし。

5日(第2日) 朝のラジオ体操は自由参加。疲れて寝ている人はそのままとして、自発性にまかせる。村の子どもと一緒に参加したもの、夕食。話題

あって決めた3コースに分かれて自然観察に行く。① 小長辻<sup>こながつじ</sup>・文化財指定の民家とトチの木、荒庵の探険、往復3時間30分。② 茅野松野城跡<sup>かやの</sup>・地形観察と集落立地条件等の見学、往復2時間30分、難所あり。③ 秋岡神社・指定母樹の見学、自然林と人工林の観察、遊び、道中の自然観察、往復1時間30分、低学年グループ向き。

午後、再び激しい雨にあそわれ①コースでは分教場や民家にひ難。たゞこの葉のつるされたお堂の中リーターの話しに興じたり、民家ごわらの投げあいをしてあはれそしておこられたり、分教場で宣宿をしたりで、思い思いに時をすごした。このときのようすが印象に残ったようだった。

夜は、あかりをつけて虫を寄せようとしたが、時間が短かったこともあって失敗に終わった。

6日(第3日)この日も、昨夜話し合って決めた3コースにわけられ、はんごうすいさんと自然観察にかけた。

① 久須部川上流、中河原、往復2時間30分。② 城山の奥、小代スキー

場のふもと、往復2時間。③ 秋岡の奥地、木地屋川、往復2時間。いずれも前日と重ならないようにした。待ってましたとばかり自分の手でごはんを作ることを楽しみにしていたようだった。城山では、平滑な岩盤に流れの速い水があるため、"すべり台"と言ひながら遊びていた。心配した夕立ちもなく、宿泊先の民家に帰ってからあまた少しの時間を利用して、川へ泳ぎに行った。村の子のじょうずないに驚く子どももいた。

その夜は、鳴尾高校の秋元先生からオーストラリアの冬のスライドを野外で見た。そして、その後、同校地学部がもつて来た口径20cmの天体望遠鏡など4台を使って、月や木星を見、星座の勉強をした。

7日(第4日) 朝5時30分に起きて探鳥会。元気な子どもが15人ほど集まつた。吉庵まで往復2時間、二の期間中はじめて少人数の子どもと接する機会を得た。「静かやなあ」とため息をもらす子。「これがほんまの自然教室と違うかな」とこちらが教えられるようなことを言う子。「お父ちゃん、タクシーの

運転手してろねん。そやから、こんな静かなとこへ来たら喜ぶやうな」と自分の街と比べるよ。「リーダーになりたい」と言うよなど、すりがん思わぬ勉強をさせられた。

朝8時すぎ、神社でプール（小代小学校）で遊ぶ川で遊びかで大変な論議がわいた。川はぬるぬるして気持ちがいい」「深いところがあるからいや」とプールを主張する主に女の子。「せっかく美方へ来たんやから川で泳ごう」とする川に賛成派、男の子。かなり論戦のあと女の子の中に男の子に賛成する子がでてきて、結局川で遊ぶことになった。また、同時に、昼は竹細工などをして遊んだ。竹とんぼや弓矢をつって。

夜は、およそ40分ほど歩いた山の上でのファイアーをした。神戸で子ども会の世話をしているリーダーがその住にあつた。いくつかのゲームの後、トーチに火をともし、お互にあく手をして山をおりた。けろっとしていた子どもとは対象的に、初めて経験した高校生のリーダー達は胸があつくし、涙を流すこともあつた。

8日（第5日） 9時30分、貴田を出発。生野峠で昼食をすませたあと、それぞれの解散地点まで帰る。非常にむしむしする都会だった。水ききんの都会へまい戻った。

#### 《指示した持ちもの》

- ・自然教室のしおり
- ・筆記具
- ・ノート
- ・図鑑（ある人）
- ・ナイフ
- ・方位じしゃく
- ・ルーペ
- ・双眼鏡（ある人）
- ・ビニール袋
- ・新聞紙
- ・ヨリ止めのくすり
- ・その他の薬
- ・雨具
- ・はだ着3枚
- ・トレパン
- ・トレシャツ
- ・ねまき（なくてもよい）
- ・すりとう
- ・タオル2枚
- ・ぼうし
- ・ゴムぞうり
- ・ちり紙5日分
- ・洗面用具
- ・くつ下2足
- ・おやつ少々
- ・おこ使い少々
- ・べんとう1食分（べん当箱は毎日使えるもの）
- ・ナップサック（現地で使うため）
- ・リュックサック
- ・水着

#### 《印象に残った“水”》

折りしもこの夏はびわ湖の水位が史上最低の50センチを割り、阪神はもとより全国的に異常な渇水状態がつづいた。しかし、それもこの美方では忘れさせてくれた。民家にひかれた川の水、炎天下

にのど"をうるおした川の水、はんご"うす  
いさん"に使った川の水。山の水だからと  
いう以上にうまい。

作文を読むと、川と水とはんご"うすい  
さんがよくでてくる。澄んだ空気、激し  
かった夕立ち、きれいな夜空、自然の事  
物よりもそうした環境が何よりも印象に  
残ったようだ。

#### ≪原体験≫

そんな中で、牛と遊んで追いかけられ  
たり、ヒキガエしにびあつたりしている。  
初めて見たり触れたりする体験。そこには、  
おどろきと喜びと不安が同居する。  
されってみようかと、自分でまよい、子  
どもなりの心の中で"かとうが生じる。  
こんな初めての体験—原体験—のつみ重  
ねで「私達は育ち、生命の尊さを知ること  
にある。しかし、原体験が公害の脅威で  
多く与えられた子どもたちには交通事故  
といまわしい事件で生命の尊さにマヒし  
ている。経済的な合理性、要領の良さが  
よく行動にでる。原体験とは単なる言葉  
であって、その与えられる環境によって  
どうにでもなる。生命の尊さを教えてく  
れる豊かな自然は、子どもたちにとって

かけがえのないものといえる。

#### ≪2年目の子ども≫

昨年第1回に参加した37名のうち、  
22名が今回参加した・59.5%。今回  
参加者の18.6%であった。想像した通り、  
子どもたちはいくぶん慣れており、  
前回お世話になったおばさんやおじさん  
に��拶をしていた。しかし中には慣  
れのため自分勝手なこともすることもあ  
った。けれどもそれは村に親しみを感じ  
ていることの表現ともいえる。それを裏  
付けるように、「若い人はみんな都会に  
でこしまい、あとは子どもやお年よりば  
かりです」と気のつく子もいた。「自然  
の中に鉄筋校舎なんておかしいな。で  
も今にこの美方にもこんなてっさんの建  
物がたちならぶんだろうな」「わたしのと  
またうちは去年たてた新品の家。うれ  
しいけれど美方へ来たという感じがしな  
い」などと、村に注文をつけている。

#### ≪田舎もんと都会もん≫

「おいっ！ おかしいと思わへんか？  
田舎もん、田舎もんというてよく馬鹿に  
するけど、田舎の方がおもしろいし、田  
舎の子の方が何でもよう知つとうやない

が。これから田舎もんいランやめて、都會もんといおうや。おれ田舎もんになろう」 それから、あちこちびこの言葉が流行した。「都會もんは何にもしかたを知らへんなあ。どーれ、田舎もんが教えたろ」という具合。これを、価値感の転換と言って良いと思う。

#### 《リーダーになりたい》

探鳥会の帰り道、「来年も来るぞ。いつまでも来れるン?」「中学校3年まで来れる」「ほんなら、あと2回来れる」「ぼくは3回や」と指を折って教えられる彼らが頬もしく「中学校卒業したらリーダーになっておいで!」「え! リーダーになれるン。知らなかつた」「そやけど、リーダーになるシカウたら、もっと勉強してもらわんと困るな。来年からわな」「よーし、やろご。勉強するぞ!」

これだけではない。リーダーになりたいという声は次から次へと出てきた。「ぼくは大きくなったら学校の先生になる。もしなれなかつたらリーダーになる」「動物園の飼育係になる前にリーダーになる」という。「ぼくもおとなになったら自然にかんする仕事につきたいなあと

思います」と作文に書く子もいた。

#### 《父母からの便り》

「川の水が冷たかったよ。ふるえてはいけないの」元気な娘の笑顔を見てほっと安心した。美方に着いた夜、おやすみなさいと電話してきたのはちょっと涙しきったらしい。初めてのひとり旅だったので、いろんな面で良いい経験をしてきたと思う。大きな木の上にあるサル/コシカケ、アリジゴク、村の友達、澄んだ川の水、そしてキャンプファイア先輩達と一緒に過した一日一日が、これから娘の成長に生かされてくれれば幸いと思う。現在の自然破壊の世の中で、自然の美しさを守り教えて下さる自然教室の指導員の方々に感謝し、これからもよろしくお願ひしたいと思います。

(小3女の父 森文三太)

前略、先日は大変お世話になりました。初めてのひとり旅、4泊5日は少々長いのではと心配しておりましたが、楽しくてもう帰るのかと残念だったと申しておりました。冷たい湧き水の事、色々な虫の飛びかうようすなど話はつきません。お世話して下さった皆様方のご苦労のよ

うすなども聞き、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(小6男の父 富田卓七)

前略ごめん下さいませ。過日は予供産が大変お世話になり、どうもありがとうございました。どんな顔をして帰つてくるのかとても楽しみでした。そしたら、バスを降りてくるなり、英彰が「もっとおりたかったワア」とです。帰る道々、「早く行きたい。早く行きたい」というのが「どこへ?」とたずねると「来年また美方町へ行きたい!」というのです。よほど楽しかったらしく、口から泡をとぼしながら、ひとつの出来事も云い残すまいとするように、楽しかった話をしてくれました。そのようすを見て、自然教室へ参加させて本当に良かった。そしてこれだけの予供産を満足させて引率されたりーダーの皆様のご苦労は大変だったことと思いました。実のところ、ウチの予供産は、なかなかの方へ行って遊びるのは余り好きではありませんでした。「休日にどこへ行こうかな?」と声をかけると決まって町、それもにぎやかなお金をたくさん使う所が好きでした。タクの自然

の良さを、まだ充分に知らなかったからだと思います。それが自然保護協会のハイキングなどに参加するようになって、だんだん山の方にも興味がわいてくるようになりました。そして、この間の美方町では思う存分自然の中で遊び、新しい友達もたくさんできて、顔中ほころばせて帰ってきたのです。帰ってからも、ついつい口に出るのは向うで教えていた歌。いなかの生活をじかに見たのも初めてでした。見るものがあすらしかったらしく、倉の話、牛の話、天井からフラ下げるハエ取り紙の話、便所の話、虫の話、有線放送の話などおもしろい話をしてくれました。自然を好きになるということは山にうるおいができるようになることのように思います。そして好きなものは大切にするようになると思うのです。予供産に良い想い出を作つて下さった皆様に心から感謝しております。

(小4男と小3男の母 松本安紀子)

#### 《宿泊の形態》

ここで利用している宿舎は民家であるが、現在のところ社会通念上いわれる民宿ではない。この自然教室が生まれるま

っかけになった新聞の投書が示すように「子どもたちに喜こばれるなら民家におとめします」というふうなものだった。今回の場合、1泊3食を千円の割で計算し、謝礼として支払った。ふとんを新調したり、ごちそうや予定外のおやつをいただいたりして、とてもまかないきれなり額である。農作業を休まなければならなくなることもしばしばである。

	宿泊受入経験表 (○印が経験)		'71	'72	'72	'73
	民 家		8	8	8	8
1 小林 勝治	○	○	○	○		
2 小林 喜代松	○					
3 小林 茂夫	○		○	○		
4 小林 新一	○	○	○			
5 小林 清太郎	○	○	○	○		
6 田尻 忠治郎	○		○			
7 田尻 芳夫	○			○		
8 田村 金之助			○			
9 田村 耕平	○					
10 田村 忠義				○	○	
11 田村 利雄	○	○	○	○		
12 村尾 梅太郎	○		○	○		
13 村尾 徳次	○	○	○	○		
14 村尾 利夫	○		○			
15 村尾 博	○		○	○		
16 宮脇 仙太郎				○	○	
17 宮脇 寅吉	○	○	○	○		

これまでには比較的、私達のわがままを通させてもらった。それが結果として、自然教室の発展に最大の協力であったことは重要な事実である。指導者が多いてもフィードバックがなくて困ることはいくらでもある。私達にとって貴田の人々の暖かい援助があったということは恵まれているともいえる。しかし、貴田地区をはじめとして、美方町は政治のひずみをまともに受け、労働単価の低い農業と過疎の問題に頭を悩ませている。その中で、観光の道に眼をむけるのは当然といえるかもしれない。一部を国定公園に、その残りの全町にわたって県立自然公園の指定を受けている。地元も、当然この事実に眼をむけないはずはない。貴田地区でも、民宿にしようという動きがある。いわゆる今までにあった民宿（安い）という理由で簡易宿泊所と考える人達が多いだけでなく、自然の中でゆっくりとすごしたい人のためにということである。民宿の主人は客にこびることなく、自然の良さを説明する。自然を破壊するものに対しては遠慮なく注意する。自然教室で子どもたちを受入れ、その経験の中からいわば、

"教育民宿"のようなことを考えている。小中学校の転地教育に利用したり、今でも伊勢に行って修学旅行をこのようないい話もある。話題は少々飛躍したが今後は受け入れの恒常化として検討されねばならない問題の解決に努力を払っていかねばならないだろう。

### 《美方からの便り》

「寄宿の外」都會の生活から離れ、この草深い田舎の自然の中に、一時の間でもとけこんでのんびりと過し、とても楽しそうな子ども達を見ている時、私達さえ童心にかえった心持ちでございました。とくに村から離れた一軒家。リーダーの方には大変不便を感じ、ご迷惑だった事と思います。しかし、それだけに自然にうまれる子ども達の喜びも大きかったのでは....などと考えておりますが、私の自負心でございましょうか。

これから先も、もっと多くの子ども達が大自然の中で楽しく過ごして下さることができるよう、いっそ研究をいたしたいと思っております。

(田村忠義)

### 《団体行動と自然観察》

団体行動と自然観察とは相容れない問題が多くある。私はできるだけ多くの子ども達に自然と接する機会を多く与えたいと思う。それがこのように宿泊をともなうものになってくると、11月あるいは12月に扱う人数がふえてしまう。たくさん的人数で自然観察するとなると、どうしてもやかましくなり、鳥などは逃げてしまふ。踏み荒して自然破壊を引き起こすことにもなる。さらに加えて、安全のため、常に子ども達の行動に気をくばらねばならない。11月あるいは12月に団体として行動に制限がかかるてくる。本末転倒なのは、自然に親しむと言っておきながら団体訓練、友だち同士の友好などと自然破壊をしている人達がいることである。

この自然教室では参加者118名を平均11名ずつに分けて班を構成した。本来は班単位で行動する予定であったが、リーダーの自然観察に対する指導力が不充分であったのと、地理の不案内によつて、3つずつ合わせて行動した。ひとつ行動班で40名あまりになり、これは明らかに失敗だった。

団体で歩いていると、後方のグループが何か見つけたとしても、ついにいかんとかんという気持ちか働きどうしても充分観察できない。したがって、歩きながら見ようということになり、虫や植物を取ってしまうことになる。

道ばたにドッカリと腰をおちつけるのもひとつ的方法である。自然の静けさや淋しさ、美しさがわかるのもこんなときになりか、しかし団体行動のときは、休けいのときぐらいで、勝手にすわったり、横道に立ち寄ったりできない。だいいち、静けさを感じることは至難のめざである。

団体という要素をはさんなければ自然観察はできない。また、人間はひとりごも自然の中では破壊する側にあることからいただけに、団体で自然の中へおこうとするときは、よほど自然の保護に留意すべきであろう。

私は、たとえリーダーの自然に対する知識が不充分だとしても、やはり単位のリーダーも加えて14人ぐらいで行動した方が良かったのではないかと反省している。さらには、もっと班の人数を

減らした方が良いのかはないかとも考えている。それには、実際上の問題としてリーダーの養成が急務になるが、大切なことは、自然を破壊するようなことは、極力避けなければならぬことである。

#### 《班の構成》

グループ編成をするにタテのコミュニティ形成を考慮して、次のようにつくった。

3・4・5年グループ 男2, 女1

4・5・6年グループ 男2, 女1

5・6・中1年グループ 男3, 女1

計 3種 11班

どの班にも、前年の自然教室の経験者が入るよう考慮した。

リーダーは平均3人ずつであったが、リーダーの養成の意味もあって、初めての者や高校生が多く、実質的には1人であつたともいえる。

それにしても、班の構成をするのは、意外にやっかいである。子どもの注文や親の注文が多く、ひとつひとつ聞いていくときりがならない。限られた時間しかない私達にとって、これに困る時間をもっと有効に使いたいと思う。

## 《ゲーム・歌・ファイアー》

4泊5日の生活をもっと有効に使えるないものかと、神戸市内のこども会で活動している4人のリーダーに参加してもらった。彼らは熱心に余った時間を利用しこ、ゲームや歌をうたった。ところが、夜も行事を予定していたため、余った時間というものがなくなり、私達は大きなミスに気がついた。

余った時間は、子どもたちの創造の時間だった。民家のおじさんやおばさんと話をする絶好の機会でもあった。それを、つぶしてしまった。一見ムダに思えるボケーッとした時間が必要だったのである。たとえ、それが一日中であっても良い。自分の住んでいるところの環境と比べたり、まわりの景色をながめているうちに、その自然教室で得た体験が初めて生かされてくるといえるかもしれない。ただ、ゲームや歌もそのフィールドをはなれたとき、その思い出をひもといてくれるきっかけにはなる。初めてあった子どもたちの間の和もつくりだしてくれる。しかし、ゲームや歌をひとつひとつ取りだしてみると、すりがん自然とは違和感

をもたせるものが多い。自然を材料や背景にするようではいけない。それに“遊び”と“ゲーム”とは違う感じをもたせる。おにごっこやかくれんぼは遊びであっても、ゲームではない。ゲームとは、隊列をつくったり、まるくすわったりしてあとで“パツゲーム”がある。歌も同じこと。

それからもうひとつ。自然の中イコール楽しい」ということである。自然といふものは人によって、条件によってさまざまである。それを、楽しいものと決めてかかっているような感じがする。自然保護、自分本位、人間本位という考えは改めなければならぬ。

遊びとは、ある意味で自然発生的におこるものだから、必要以上にゲームや歌にこだわることはいらないだろう。もし遊び事を知らずボケーッとしているならそれがいいのではなかろう。むしろ、自然教室にとって、一見ムダに思えるボケーッとした時間をどう与えるかが、重要なカギをこぎつけてくるといえるかもしれない。一方、マンガばかり読んでいるならゲームをしようとするとそれもおかしい。なぜなら、マンガを悪いものと決め

つけてしまうのもどうかと思うが、それよりも自然の中にこそマンガよりも関心をよせるものがあることを尊くのが指導者といえないだろうか。マンガの楽しさをゲームにすりかえただけでは本当の解決にはならない。

ゲーム（遊び）とか歌は、自然に接したときの精神的な心の表現といえないか。楽しいときは歌がやって口から出てくる。友だちと、ささやかな遊びにいたる。そんなものではないだろうか。

自然教室の第4日目、すべての行事予定の最後にファイアーをした。“大火をたくやつはバカだ！”というそれをやつた。私達のねらいは、短かった4泊5日をふりかえり、自分たちのおかれている環境を思い起こさせてくれるようなものにしたいということだった。ファイア一場が山の上にあったので、帰りの夜道で月の明るいことも知って教しかった。ファイアーのおわり、お互に握手をしごいっとき、何とかやり通した安堵感がこみあげ涙を流していいリーダーもいた。たいまつの火で山をおりながら、子どもたちと話しもできた。

しかし、この一夜にかけたエネルギーはあまりにも大きすぎた。美方へ行く途中のバスの中でのゲームや歌、また観察に出かけたときや、民家にいたときの余った時間にしたゲームや歌が、そのほとんどこのファイアーの流れだった。

ゲーム・歌・ファイアーはあくまで補助的手段である。それが今回の場合、主流をなしてきたのは、こども会というある程度完成された野営技術を身につけたリーダーと、ようやく日本でも起りはじめ、これからという自然保護教育をめざすリーダーとの力関係の結果といえるかもしれない。私達は自ら、自然教室における指導の研究と訓練の必要性を謙虚に認め、反省しなければならない。

また一方“大火をたくやつはバカだ”といわれる通り、必要以上に木を燃やすのもどうかと思う。大きな火をつけるということは、それだけ広い野営地が必要になるわけで、そのためにある程度の自然を破壊してしまう。もちろん、多くの木を灰にしてしまうことにもなる。

火を発見したことによって、人間に文明がもたらされたが、同時に自然の破壊

が始まったことをよく認識しておくべきである。また、ファイアーなどのほか、自然観察においても技術に過信して、自然を破壊するようになつてはならないことを、先の団体行動とともに充分な注意を払うべきである。

#### 《"せみの声"新聞》

第2・3・4日の3日間 "せみの声" という新聞をつくった。新聞というには、ほど遠いものがあったが、その日にあつたこと、思ったことなどをワラ半紙に書き、公会堂のかべに貼り並べた。「美方郡はとってもよいところ」と書いてあるのを読んでいた農作業に行く途中のおはさんにはとてもよろこんでいた。

この新聞は、その日その日のできごとや印象を書きとめておくのには有効であった。作文とはまた違った効果がある。今後さらに改良を加えたい。

—写真のページを参照—

#### 《自然教室のリーダーとして》

私はこの美方教室に参加して、とてもよい勉強をしました。「自然」というものの大切さを改めて教えられ、それと同時に子どもを指導することのむずかしさ

がよくわかりました。

リーダー募集の話しを聞いたのは、5月上旬。「美方町で4泊5日の間、子どもの世話をしてくれればいい」ということでOKしたのがあまかった。説明会の日は、おかあさんの前でおとなしかった子ども達。ところが現地へいくと....。

8月4日、民家で子ども達と再びじっくり面接。「女の子だし、おとなしそうない子ばかりだわ」と内心の喜びもつかの間、ついに本性をあらわした。「リーダーは、言うことを聞かない」とリシチだなどと言われ、女の子と安心していいた自分の考えのあまさが身にしみた。これから4泊5日もいっしょにうまく暮して行けるか心配でした。その心配が頂点に達したのか、ついに38度3分の熱を出しダウン。一番騒しかった子が「リーダーだいじょうぶ」と心配してくれたには驚きました。とにかく、着いた日とうとう病気になり、このためせっかく川で泳ごうと楽しみにしていたのに、泳げなかつたことはショックでした。

翌日、平熱にもどったので、子どもといっしょに秋岡へ行きました。私は、昼

食もどこぞに子ども達にひっぱりまわされ「リーダーこれは何?」とわからぬものを自分からたずねてくれたのは、やはりうれしく思いました。こちらから教えるのではなく、子どもが自分から疑問を解決しようとする心が大切だと思いました。シダの葉を見つけた子が「葉の裏に虫がついてる」と言ったので、「これは胞子といって、シダはこれでふえるのよ」と教えると、興味を持ったのが一矢で観察しはじめたのです。自分から進んで「何でも見てやろう」と言う子どもにどの子もなってほしいと思います。

3日目、城山へはんごうすいさんに行き、子ども達は川の水の冷たさに驚いたようす。都会では川なんか泳げない。プールの水は、いつも先生が水温をはかって冷たい時には泳かせないからでしょう。私もどんなに泳ぎたかったことか。泳いでいるうちにのどが乾くのか「リーダー、ここの水飲んでもいいの?」と聞かれました。「たぶん大丈夫でしょう」と答えると、少しだけ恐る恐る飲んで、「おいしい。うちの家の水とものすごくちがう」と言う。この子はきっと、田舎

は都會よりいいと感じたことでしょう。

4日目、朝の集いで「川とプールとどちらで泳ぐか」を始めた時、「都會の川では泳げない」という意見がでてきました。にうれしく思いました。それだけ田舎とよく比べてくれていたのでしょう。自分の生活と田舎の生活を比べ、自然のよさをわかってくれたと、私は信じています。マイラーの帰り道、星と月のあかりだけ歩いた時、子ども達はこれがらなかつた。まっ暗だったけど、子ども達にとっては、はじめての経験だったでしょう。他にも初めての経験は、いくらでもあつたようです。牛を初めて見た子、星を数えきれないと見た子、川で初めて泳いだ子、初めて竹細工をした子などいろいろあったと思います。

私は、この子ども達を見て「都會っ子」を感じない日はなかった。何を見てもめずらしく「リーダー、あれは何?」の連発です。このみかた自然教室にこられた子どもは幸せだと思います。自然にふれることができたのですから。どの子どもも行く前より成長したと思います。私自身も大きく成長しました。子どもとともに

いろいろな事を学びました。私はもっと多くの子どもに、このみかた自然教室に参加してほしいと思いました。これはどのリーダーも同じ考え方ではないでしょうか。星をプラネタリウムでしか見たことのない子、プールでしか泳いだことのない子、土を知らない子を作らなければ、土を知らない子を作らなければなりません。でも、多くの子どもが参加することが必要だと思います。

来年は大学受験です。ひょっとしたら来れないかも。でも、許されるのなら、この自然教室が続く限り、毎年参加したいと思います。

(県立鳴尾高校生 蔵本タ佳子)

### 《これから課題》

このみかた自然教室は、4泊5日を1ブロックとして考え、できるだけ長い期間自然に接することができるようにと、2ブロック(8泊9日)を検討していきたい。さらには、年齢も許せる限りできるだけ早く自然に接する機会があった方が良いので、1年繰り下げ小学2年生以上を対象として考えたい。

一方、リーダーになりたいとの希望も多く、高学年や中学生には独立して班を

構成することを考えたい。

貸切バスなど"もできるだけ利用せず"に国鉄と路線バスを利用して、田舎へ行くことの雰囲気をもたらせ、行動にあたっては団体を意識せずにすむ方法を研究したい。

班の適正人数にも色々と検討を加え、リーダーの研修に努力していきた。

宿泊形態については、美方町全町にわたって考え、町の発展につながるよう配慮していきたい。

その他、いろいろと課題があるが、その一応の問題は各項目ご指摘しておいたので、最後に毎月の自然教室の関連について記しておきたい。

自然教室は、毎年9月にはじまり、翌年の8月で終わる。そして、それが2年3年と年を繰り返していく。したがって単発ではなしの、1度や2度の失敗は後で"おき"なうことが可能である。自ら気がつけて、成長していくことができる。それだけに、月1回の自然教室は大切であり、その成果がみかた自然教室となって繰りていく。今まで月例の教室が充分なかつたが、来年は初めて、1年間

つみあげた結果としての美方教室を実施 美方教室の成否をにぎっているともいえ  
することになるだろう。月例の教室が、 そうだ。

## 兵庫県自然教室育成会 第1回 定時総会 1973.9.30

※ 事業報告は省略（本文参照）

### I. 役員の選出

理事長 谷口博次

理事 稲尾 豊 岩根正典 角中 透 川畠啓一 沢田房子

島田嘉夫 工 義尚 髙毛慶隆 永田美都子 橋本敏明

橋本秀緒 長谷川福治 平井元明 松本安紀子 山田利行

吉田 勇

監事 門脇正宏 山内 猛

### II. 事業計画

- ①毎月1回、5地区（阪神・東神戸・中神戸・西神戸・姫路）ごと自然教室の実施。
- ②中学生部の自然教室を、毎月1回行う。
- ③美方町ごとの自然教室（'74.7～8）
- ④年次報告書「つみあげ」の刊行（'73.11）
- ⑤兵庫県自然保護協会と共にによる自然教室の実施。
- ⑥自然の保護に関する講演と映画の会の実施。
- ⑦自然教室研究所の設置の検討。
- ⑧法人化への検討。
- ⑨他の自然教室団体との連絡協力。

### III. 決算報告 ('73.5~.9)

◎収入の部 73,735

会 費 31,800

寄付金 20,600

事業収入 21,335

◎支出の部 73,735

設立準備費 7,685

事業費 3,270

事務費 71,190

印 刷	17,000
通 信	12,125
消 耗 品	5,220
備 品	33,580
交 通	660
諸 合 費	2,500
雜 費	105

会議費 4,900

緑 越 △13,310

### <特別会計>みかた自然教室

◎収入の部 1,047,250

会 費 942,200

寄付金 104,000

種収入 1,050

◎支出の部 1,047,250

交通費 209,000

下見交通費 14,460

宿泊・食事 573,000

保険費 43,730

事務費 76,725

会費返済 39,000

未払金 70,000 ※全但バス

一般会計 21,335

### IV. 予算 ('73.10~'74.9)

◎収入の部

会 費 340,000

会 費 300,000

(正) 1000 × 200

(補) 1000 × 50

(補) 5000 × 10

寄付金 35,000

事業収入 5,000

◎支出の部

340,000

事業費 120,000

事務費 200,000

会議費 20,000

### 《自然教室発表会》

総会終了後、みかた自然教室のスライドをまじえ、自然教室発表会が行なわれた。雨と寒さのためか、美方から5人も来られたにもかかわらず、参加者が、父兄と子どもをあわせて約80名があつた。

### 5地区にわかれた自然教室

美方教室に参加した子どもが「タカったので、9月より5地区にわかれて自然教室することになった。

これによって、より身近な自然につい

て考える機会がふえた。他の地域のようすを知ることは合同で行うことご解决させていく。また、10月より中学生部を結成し、より深い理解を求めるようにする。

分けられた5地区と中学生部の内容は次の通り。( )内は愛称。

◎阪神(しうぱんぱ) 西宮以東

◎東神戸(のこのこ)

芦屋、神戸市東灘区、灘区

◎中神戸(ありんこ)

神戸市葺合区、生田区、兵庫区、

北区、長田区、須磨区、垂水区の

神戸電鉄沿線

◎西神戸(ひんぐり)

神戸市垂水区、明石とその周辺

◎姫路(つくしんぽ) 姫路周辺

◎中学生部(まんとる)

対象は 小6・中1・中2

4月に学年が変わって

中1・中2・中3

《実行委員会》

月例教室にしても、美方教室にしても今までとはその指導にはっきりとした判断の基準がなく、個人まかせであった。そこで、今回の美方教室の反省から、また5地区と中学生部にわかれた月例教室の指導の一貫性の必要から、実行委員会を組織した。

「兵庫県自然教室の考え方」(2・3ページ参照)を基準に、自然教室の頭脳としての働きをもたせている。

—子どもの数と学校—

1973年8月末現在

◎総数 127

男94 女33(26.0%)

◎学年別

中3	1	中学生 計 13(10.2%)
中2	2	
中1	10	

小6	42	小学生 計 114 (89.8%)
小5	33	
小4	27	
小3	12	

◎地域別と学校

( )内は子どもの数。ないのは1。

尼崎・2 上坂部小 尼崎北小

西宮・8 今津中 甲陵中

段上小(3) 小松小(2)

鳴尾北小

芦屋・3 宮川小(3)

東灘・8 御影中 魚崎川(4)

御影北小(3)

灘・2 美野丘小(2)

葺合・0 なし

生田・4 下山手小(4)

兵庫・5 大開小(3) 入江小

鶴越小

北・8 三田学園中 山田中

南五葉小(4) 横宮小(2)

長田・10 荻窪中(2) 池田小(4)

五位ノ池小 雲雀ヶ丘小

須磨・14 高倉台小(9)

妙法寺小(4) 板宿小

垂水・41 歌敷山中(2)

露ヶ丘小(20)  
 東舞子小(11) 塩屋小  
 愛徳学園小 多聞台小  
 高丸小 東垂水小 舞子小  
 明石。14 大蔵中(3) 朝霧中  
 人丸小(9) 花園小  
 神戸大学付属明石小  
 湾本。1 第三小  
 姫路。6 飾磨小(4) 山田小(2)  
 神戸。1 大阪教育大学付属池田小  
 以上、45校

### フィールドマーに対する見解

#### ◇採集について

植物・昆虫・岩石の区別なく、自然物の採集は許されない。たくさんあるものは良いだろうというような数量によってではなく、採集することによって自然のしくみが破壊されてしまうことのためにある。量の多少は自然のしくみのバランスから生じているのであって、人間はそれをくずしてはならない。

名前が覚えられないという人もいるだろうが、必要以上に名前を覚えることはない。家にもって帰って図鑑とあわせる

ことよりも、植物や虫がどういう条件で生活しているかがより大切である。

しかし、木の実であるとか、葉をかじったりすることは、名前を覚えるに非常に有効であり、自然に接しながらできることが積極的にしてよい。いきおい採集はだめというと何もできないように思う人がいるが、"採取"という手段で自然のバランスに充分注意して、自然に接していけばよいのではないか。

特に、中小学生を対象とする自然教室においては、実際に動物や植物が、またそれら自然環境が与える影響は、自然科学的なことよりも、精神発達の過程に必要な情緒的なものの方が多いように思える。それだけに、生命の大切さと、自然物に触れたときの感動などが重要になってくる。

#### ◇ゴミについて

ゴミはすべて家まで持つて帰ること。汁の出やすいもののやカンなどは持つて帰りにくないので、はじめから持つて来ない。弁当の折箱など無用なゴミも、つぶしむべきである。自然資源の保護からも必要な使い捨てはやめるべきである。

## 兵庫県自然教室育成会 規約

- 第1章 総則  
第1条 本会は、兵庫県自然教室育成会と称し、事務局は兵庫県自然保護協会内におく。  
第2条 本会は、少年少女に豊かな自然環境を提供することによって、自然のしくみを学習し、理解を深め、自然保護の精神を養うことを目的とする。  
第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。  
(一) 小学生および中学生を対象とする自然教室の実施。  
(二) 自然保護教育に関するパンフレット・図書などの資料の作成、供給。  
(三) 自然教室指導員の養成。  
(四) 自然保護教育の調査・研究。  
(五) 自然保護教育に関する意見の具申・表明。  
(六) 自然保護教育に関する他の団体への連絡・協力。  
(七) その他必要な事業。
- 第2章 会員  
第4条 本会の目的に賛同し、所定の入会の手続きを経て、所定の会費を納め、自然教室に参加する小学生および中学生の保護者を正会員とする。  
2 本会の目的に賛同し、所定の入会の手続きを経て、所定の会費を納め、会の事業に参加する個人または団体を準会員とする。  
3 本会の目的に賛同し、理事会の承認を経て、所定の会費を納める個人または団体を特別会員とする。
- 第5条 会員は、総会において、表決権を行使し、役員を選出し、選出される権利を有する。ただし、前条第3項の特別会員はこの限りにあらず。
- 第3章 役員  
第6条 本会に次の役員をおく。  
• 理事長 1名 • 理事 若干名 • 監事 2名
- 第7条 役員の任務は次のとおりとする。  
(一) 理事長は本会を代表する。理事長は理事の互選による。  
(二) 理事は理事会を構成し、本会の会務を遂行する。  
(三) 監事は本会の事業・会計について監査し、総会に報告する。
- 第8条 役員の選出は、所定の期間内に推薦または立候補を届けた候補者について、総会がこれを行なう。役員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 第4章 総会  
第9条 本会の最高機関は、総会である。総会の決定は、出席者の過半数の賛成を必要とする。
- 第10条 総会は、毎年9月に開く。ただし、必要に応じて臨時総会を開くことができる。
- 第11条 総会は、次の議案を審議・決定する。  
(一) 役員の選出。  
(二) 規約の変更。  
(三) 事業報告および決算の承認。  
(四) 事業計画および予算の承認。  
(五) その他必要な事項。
- 第5章 会計  
第12条 本会の会計は、会費・寄付金・事業収入・助成金およびその他の収入をもつてこれにあてる。会費については別に定める。
- 第13条 本会の会計年度は、定期総会から定期総会まごとする。  
付則  
第14条 この規約は、昭和48年5月5日より施行する。

会 費	
正会費	1千円
準会費	(一) 5千円
9月から翌年8月まで有効	

## あとがき

この年次報告書を作成し始めたのは、9月のはじめ。まる3ヶ月かかって、今やっとすべての製作をおわった。自然教室にこれといったテキストがなかったのと、できるだけ多くの実践例をいれ、さらにこまかい事務的なことも加えたためはじめ予定していたものより、かなり部厚いものになった。

しかし、私達の自然教室は始まったばかり。年次報告書『第1号』が示す通りこのうえに、さらに2号、3号をつみあげていかねばならない。第5号ができるころには、自然教室の中で育ってきたリーダーが活躍しているかもしれない。そう

思うと、何ともいえないうれしさと力が湧き出てくる。

私達は、この自然教室の報告書の中でできるだけ謙虚に記述した。はずかしいことも、嫌なことも、これから踏み台として残らず書き記しておこうと思った。これから自然保護教育を実践しようという人には、参考になると思う。

今、5地区にわたる自然教室は、何とか順調に進んでいく。第2号は月例教室の実践が多く記されることだろう。

最後に、これを読んでくださったみなさんから、ぜひ意見なり感想が届けられるよう祈って、ペンをおきます。

1973年12月1日 発行

つみあげ 1973年版 年次報告書第1号

編集 兵庫県自然教室実行委員会

発行 兵庫県自然教室育成会

〒652 神戸市兵庫区荒田町3丁目212  
電話 神戸(078)521-2652  
振替口座 神戸45455



1973年7月 美方町を南から北へ流れる矢田川。水は冷たく、美味である。

雨にぬれても音によく響く												ホーリーな感じで書く			
年月日		やまみ		= 3 う		出席表		甲子年 令和元年 平成30年							
此名		山見太郎													
年度	年月	ニカラガ湖の風										高水浴場	20 21 22 23 24 25		
		19	8	10	11	12	1	2	3	4	5			6	
71	4											○	4月6日登場		
72	5		○	○	/	○	○					○	5月現在		
73	6														
74	1	下中													
75	2														
何んてかねは 仄原を書く事 一中3年生												(74.7.2. 2007-1-1) (11.1.11.2018.1.10.1) 小室堂(2017年9月から) 中野区立図書館 中野区立自然教室 ひがむらな自然教室			
自然教室は → 4月から始まり翌年8月にはある															

## 個人カードの例

わたしは宮わきさんの家のえんせ  
ずわで、トートにまわりのけ  
しきを書いていました。  
そうすると、今日の雨の水  
が水たまりにたまっていました。  
そして、トートを書くのをやめて  
水たまりをじっと見ていました。  
そうすると、とんぼがとんできて、  
水をかけたり、上に上がったり  
していました。  
そして、トートにとんぼのことを書く  
ことにしました。

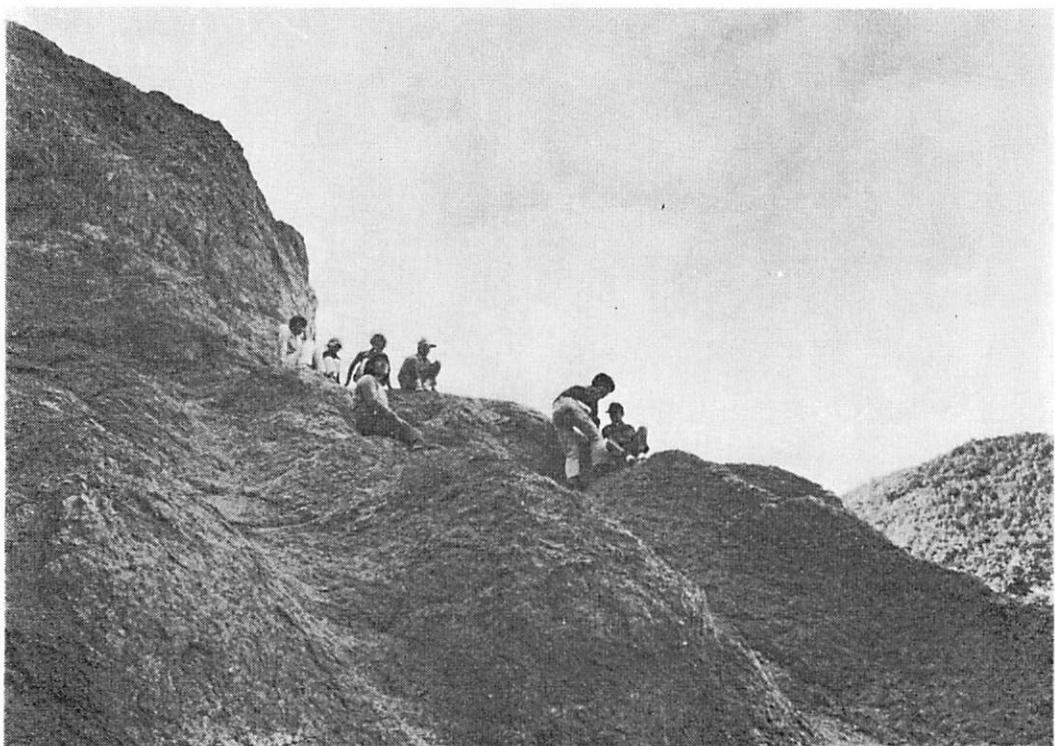
「せみの声」新聞の例 1973年8月みかた自然教室で



1973年3月 美方町の雪景色



1973年3月25日 美方町貴田にて



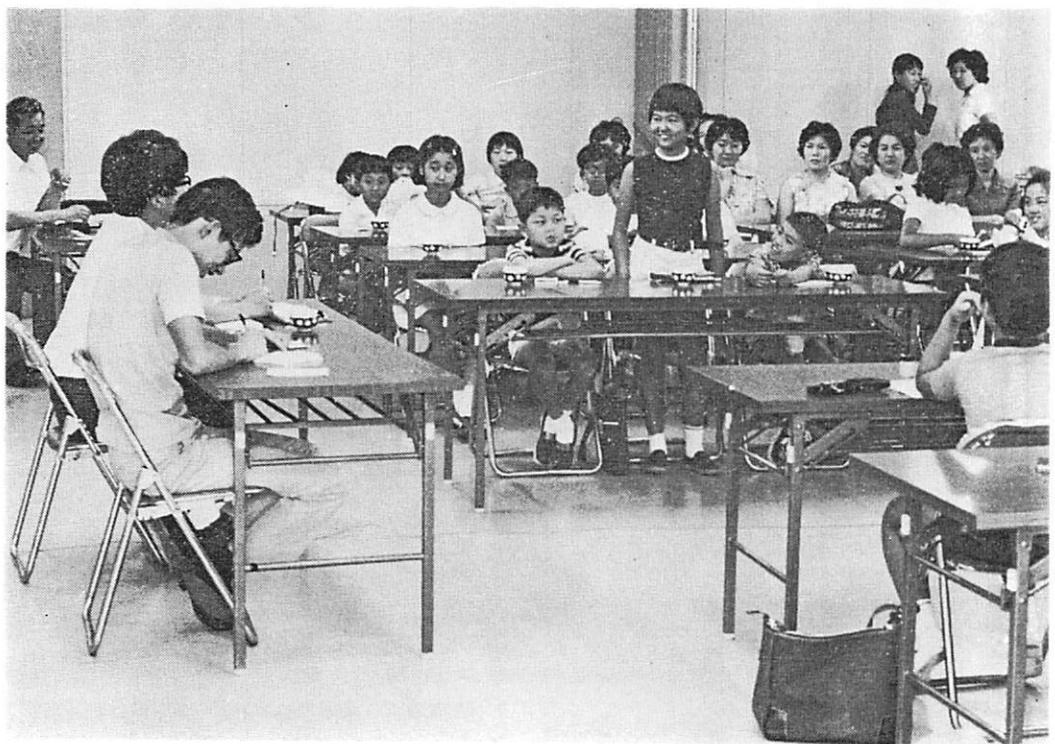
1972年11月5日 宝塚の蓬萊峠にて



1973年8月 観察する子ども。みかた自然教室で。



1973年6月24日 武庫川の尼崎側河岸にて



1973年7月8日 こども会議。神戸市総合福祉センターにおいて

山川、廻遊に出で、終つて、戻つていた。なに生じてか

ハド。せん、やへはあわせの作文にせんで、三の木が

お見こだれしと、余だかうと、と題す。立派な題つ

て、ふむつである。また、山川が歸る行つたとき、そ  
うであつた。

一方、一編残らず、つまごへて全く關係なく、のせ  
せました。ふつて、本意をせんがるものか、一部修正、削除

した作文がわざとが、いよいよ原文へ進く修正しま  
した。

おさつしに作文、かれいに作文、やひばりした作文、大  
人ほこ、やさしに作文、かれいに作文、めらし、男  
らしこ作文、いづくバエエティーの秀る作文で、読ん  
でいるだけでも樂しいものでした。

原稿作成:

角中

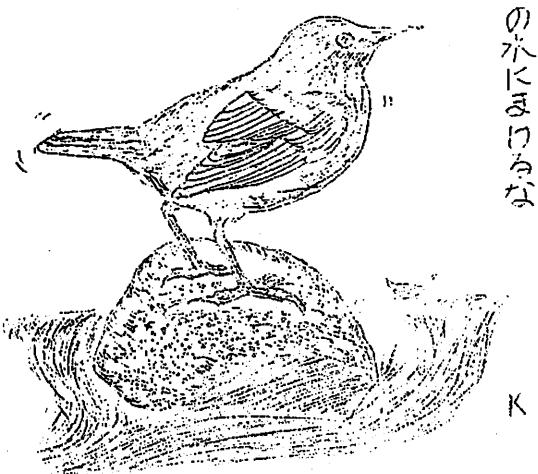
協力者:

村田

カット:

KとM

\* おりじ(訂正) 2頁の上段(神戸)  
姫路です。4頁下段 潤見→澤美



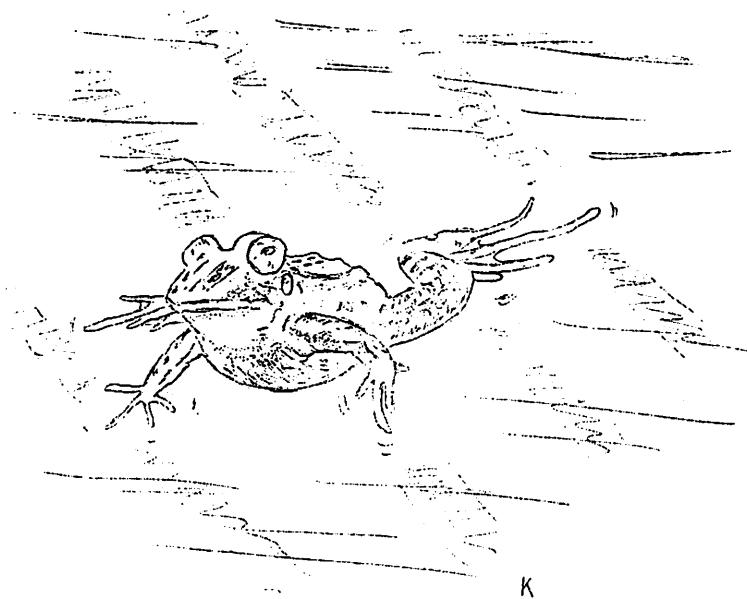
ん校舎のそばにかかるのが、でも今、この美方にもこんな  
な鉢巻の建物が、たちながらだらうが、そんなこと  
にはなつてほしくはないけれど……と思つてゐるつた。  
バスが止めた。少しずつと空の色が変つて来た。「ボ  
ツン、ボツン」と雨がふつて來た。カミナリもなりだし  
た。神戸で聞くのより、はく力があつて、とってもいいや  
い。じカツ・と光ると、ベームとおちて、ノカノがや  
ぶれさうだつた。

わたしの泊まつた家は、去年建てた新居の家。うれし  
いつど、美方へ來た。どう感じがしない。でも前に見  
える丘がとても美しい。その夜、神社へ行つて怪談を  
しらした。リーダーの話しかわあつたけど、自然の中の  
神社にからず、くわかった。こんな人が大勢いても、  
ゆうれいがいると思つたがつた。そんな所で、な  
んともえりいなのは、川の水。底がまる見え。泳いで  
いるとすこく深い所でも底がよく見える。虫もいる。虫  
がいるところとは、水がきれいといつこと。神戸で今  
川なんかない。水不足で、水がなくて、グリオーバ。考  
えただけでも気が重い。美方の水で顔を洗つと、どんな

がむしゃらも冷たい水で目がへめる。そんな気持ちの  
いいところでは、鳥の声、虫の声、川の水の音が聞こえ  
る。一人で美方へ来年も、二年も、何回も何回も、行  
く。まだ一回。おみやげにもらつた大根の白いが、美方の川  
のかつて、田舎でそのまま置いてあるかつて思つて、  
大切に持つて帰つた。

舞水区歌麿山

(23)



三田川の河口に近い、(1) 河原町、(2) 河原町、(3) 河原町、(4) 河原町

「お前がお出でにならぬか、やつはお出でにならぬか。」

人が自分の力でやるといふが、どういふことを、とて



佐野美砂子

目四四之齋，用監工役州，鑿鹽井，核水之源也。土  
之分二鄉，北山為二山。鄉廟，山山之南也。

着二重の羽織を身に纏ふ。その水着など、  
ハニ、汗が滲る。アヒトは、アヒトの汗。  
三、アヒトはアヒトの汗。アヒトの汗。  
アヒト、アヒトの汗。

行極之制也。二非德之施也。

後でハジカツル、サヤハアヤイヤーをやうにした。しかし、日四郎、黙々と立つてゐたが、ハヂカツルが笑ひ無い事だ、ハヂカツルの口説き合ひ終つて、日四郎は大笑ひ、ハヂカツルに向つて、「お風呂場で、自然教室で、自然のことを教へる」といふ。ハヂカツルは、喜んで、「おお、おお」と手を叩いて、笑つた。

美方で樂しかったのは、やはり生まれて初めての頃(うすじぐるだつた)、あんまり流れが強くて遠つて行ったところもなかつたし、餓(う)と使つたこともなかつたからだ。そして、しんどかつた出歩みだ。しんどくとも歩き切つた時のうれしさ思えれば、平気。他にも自分でやつたことは、何でも樂しく、走りがつた。特に自分で作った竹竿(たけざな)。でもうしてつだつてもつたので、自分で作つたと云はれ切れない。でもう走つて、車(くるま)が、とても樂しく、家に帰りた、「なと」と感つたことはなかつた。だから帰る間段(まど)とも残念だつた。村の人が見送つて「また」とつらうやしく、何(なん)かびびしがつた。

一帰つてから母(おやじ)が歸(もど)り、と思ひ、お母(おやじ)に「おやじは、おさじにし、氣(き)やかにしながま」などと叫(さけ)つた。

坂田真弓

北國新聞

夏休みが終つた今、一番樂しかった東(ひがし)出歩(でかけ)やはり美方です(こ)した日泊(とよ)日でした。去年とくらべて向かへた時は、星や生物の觀察(せいかう)がやつたこと、マンドラーイバーがあつたことです。ちゅうもんは、美方(ひがし)日没(ひぼく)までまわつてゐます。二の水(みず)も冷たくて、とつても水(みず)いで去年の流れと變つてゐる所もあつました。帰る日が来ると、もつともつと、川(かわ)で遊びにくる風(かぜ)で走つたと云はれ切れない。でもう走つて、車(くるま)が、

したがふとくに樂しく画(か)いたと想(おも)ひ、西(にし)へ向かへたところが残念(ざいねん)です。やだし夏休みが終るまで美方にこへること無いのが、でも自分の家(いえ)に帰(もど)と、やつぱり「自分(じぶん)うつてこない」と想(おも)ひました。今年も去年と同じく、年に帰(もど)たのをすが今年(こととし)、うつ大勢(おおぜい)で走(は)しかつたです。遠(とほ)もたへてくだされつてわたし自身(じぶん)は、少しやがれしへ(こながへ)反対(はんたい)してこります。せひ、来年(こととし)

した。毎朝毎晩寝てしまふ、起きては洗濯二つばかり。村の人たちが、どの人もみな、やくしごと、黒石山へから出立つた。朝のまづは朝飯を食ふて、おしゃべりがてらに、たぬきの子が生息しているのと見て、驚いていたのやでるがゆゑと、へりしまることだが、村の人たちのやまいは、黙つてながら、一ぱり聞くべつである。



舞水区五色庄

森 ゆか

林間から雪へて散歩しようとすると、黒のゆが地図を口に開けていたので、何をしたのかと見にこむと、「あひじん」とやがて二種しだ。私もおみゆのかきの葉のやうな葉を、シーリーと見てこたけど、一匹もおへきやうだった。今度、あひじんはぬ見つけたら、おみゆのかきの葉の、さうの大きさ、ややこさん、ハサウエー風二枚。ただし、かえりながら戻らなければならなかつた。



舞水区舞子坂

(20)

と母の弓矢、お水きのやがり、タオルをぬらしたつ。及ださと水の中に潜り入れて、だれか一番がまくばくのかがまくへりてくぬしが遊ばれた。そして、はゞりつたことだ。正には、なぜか、とくもおこしこぜした。美方にせ、三が次日あつねた。みんな水がかれこじ足をつかないのほかへです。それが、ぐぐると、わたしたちの弓矢、じぶんの矢へと餘る。神戸に帰つてから、お風、井戸の水ぐたといふが、生駒鉢山の近くだとこつゝとお聞かぬつた。やいの人たちは、今でも公團のお米ぬかをうに懲りて、何人がのんびりおしゃべつてゐるやうだ。わいしだつたうどひゆがたわへ。わいとおしゃべつて、これ、とおしゃべつておしゃべつてゐるやうだ。あんな景物も二つあるが、おひしとお米だけがわるいんだから。

つかへ、かかづや。おがは、ロレンスが、とう  
ふのかうだ、アーメルニヤした感じでした。

まだ、今年から、こうすんだ自然観察をして  
みたいと思ひます。  
市屋市南宮町

(19)

### 須ヶ丘高砂町



K

### 鶴ヶ丘小六

### 山口四郎



K

宮川小六

八月四日、美方に着いた。あいにく雨で、予定通りに立った。名古屋へ行って自己紹介をしました。でもみんな同じ、あまりしゃべらなかつた。顔をあわせても、やじ田とさうした。でも、みんなとほ二日目ぐら、から出立つなどして伊良くなりましした。毎日川ですべって、服をぬらしたり、帰るためのお金を着く前に全部飲んで困つたこともありました。思ひ出しへ見ると、みんな樂しかったのかなに思える。それに、五日間、規則正しい生活を、よく、たとえ友だちどうして協力しながら、すばらしく自然の中で生活できたこと、とても、「勉強になったと思う。来年も、

今年も美方自然教室に参加しました。一回目だったから、あまつぶ配や、不安はない。ただつかして心が田舎地に飛ぶました。村の様子が、だいたい覚えていたが、リーダーの人たちが神社の境内へかけつけた。去年お世話になつた懐しいおばあさんの家をたずねました。おばあさん、まだつむぎがまだ、いかにもうれしそうに、あたたかく出迎えてくれた。去年ぼくたちはのとまつた部屋は改築られて、広くなつた。まだから見る景色は、去年と変わらず、美しかった。春休みに、日帰りバスで、さくと町へ来たが来てくると思つて乗りましたが残念です。冬休みには、さくと町へ約束しました

は、こんなしづかに、水がながにずっと住めたいい  
が、と思ひました。早く来井になつて、まだ行くこと  
思つます。

### 大蔵中一

姫路市飾ナヌ

横内博次

みかた自然教室は、ほんとつては、とても有意義な  
ものでした。初めほくが想像していたよつとたゞへん楽  
しいものだ、何年ぶりに出たう、ラジオ体操、朝  
早くから起きて、つらがたけどいわとなれば、良、  
思ひ出でつてゐる。そして、たくさんの人と連出来  
るかもしなが、といづれが本当になつて、かかへん  
であります。

### 露ヶ丘小六

沢田真福子

とっても冷たらしいの水、水着を着て川の中に入ると心  
さづが、あきの冷たさで「アンドメン」と、「アンドメン」と  
でも、「アンドメン」と教えてくれました。たまに葉は始めて見まし  
た。おとなの人やすこいふたばーが想像して、お茶  
の葉のぬくべひとつ小さくと思つていたのが、あまりに  
大きいのが、びっくりしてしまいました。あら違ひは、  
大きがひきがえると、見ました。どちらがわかるだけ  
であります。

(18)

### 高倉台小五

佐々木洋一

甲子水又歌麿山

うらやましかった。それにくづべて、神戸の方は、まだ  
で公會に園主代ていきながら、私の家に草木の方だけど  
最近は、光化学スモッグ注意報や予報が出るようにな  
た。

とつても冷たらしいの水、水着を着て川の中に入ると心  
さづが、あきの冷たさで「アンドメン」と、「アンドメン」と  
でも、「アンドメン」と教えてくれました。たまに葉は始めて見まし  
た。おとなの人やすこいふたばーが想像して、お茶  
の葉のぬくべひとつ小さくと思つていたのが、あまりに  
大きがひきがえると、見ました。どちらがわかるだけ  
であります。

はるかに遠くまで見渡せる。山の斜面には、木々の間で、

「さあ、さあ、さあ」と、歌をうたう。歌は、さあ、さあ、

と、歌が聞こえてくる。歌は、さあ、さあ、さあ、さあ、

と、歌が聞こえてくる。歌は、さあ、さあ、さあ、さあ、

田中大野

「十九秒だ。距離は〇・七秒で五ニセ、」「七ナシ」「七

ス」「スニの速さだよ。飛行速度が飛行時間・飛

行時間=飛行距離であるから、十回、十周ともいふ。

「飛行時間は、飛行距離を飛行速度で割れば、飛行

### 日記六月

松本英



<17>

星雲のなじみ方を見たり、天体望遠鏡で星云観察したりした。夜は見つけた。見たところが、月の表面や、木星を初め見てみた。はじめて星云を見て、大きかった。初めて見た人に、「さあ、さあ」と歌をうたった。歌は、さあ、さあ、

卷之四

沃用英子

霞丘小六

岩根康朗



垂水区歴史



卷之三

。おとなの団子が、ち、ち。せうぢや、おーんおーん

。おとねの団子が、おとね。おとね、おとね、おとね、おとね

### # 鹿島大原町

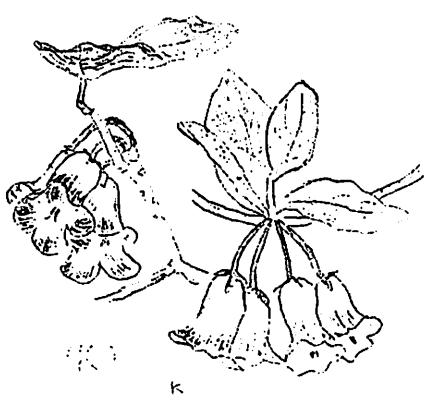


トヨカバ

森 夕美子

はるかうす、はるかうす、はるかうす。

生田区下山町通





アリスル事、ナシル事無事。ナシル事、アリスル事無事。



木村直人

大藏中  
一

卷之三

岩根大典

卷之二

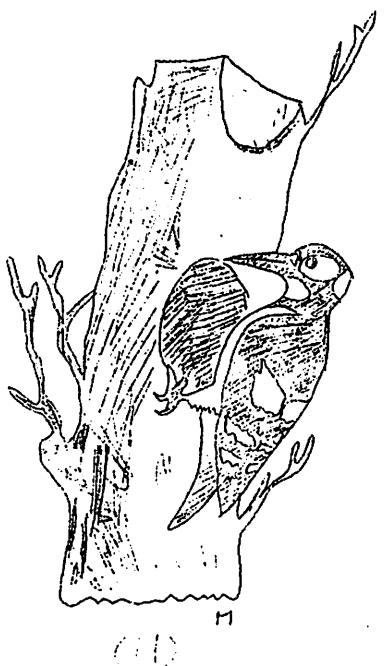
13

秉舞子小六

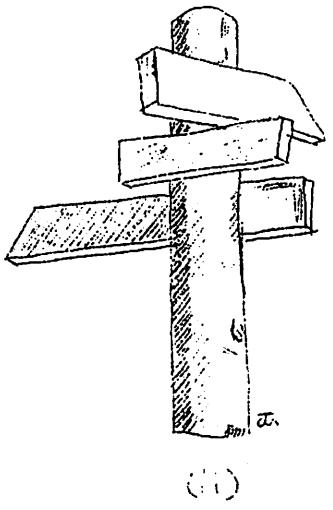
印本一史

大關小五

高  
三  
佳  
武



<12>



卷之三

卷之六

無事自然教會だ。魔羅山は、魔羅山に魔羅山の魔羅山だ。魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

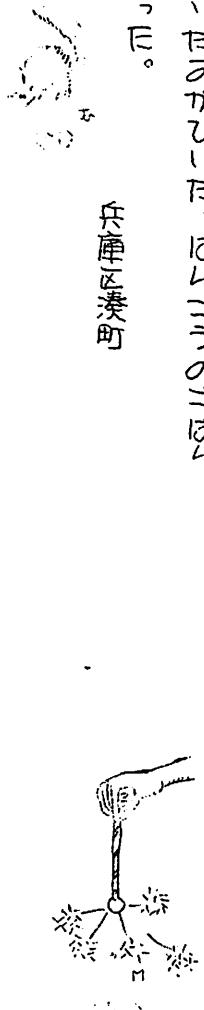
魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

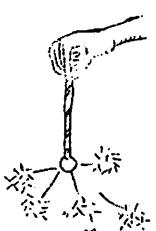
魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。

魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山の魔羅山だ。



刀

<11>



刀

<11>

刀



刀

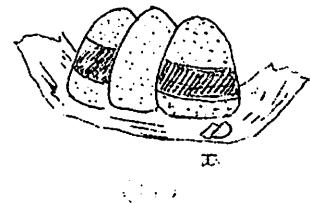
「ほんた、無むじゆうじゆうが無むじゆうだ。船出はだづか  
ハシル四つ、無むじゆうたじゆうを二つうべる、船の

ハシル四つだ、無むじゆうあら、船出はだづか、川四  
の彼方、おじゆうもいはれ、川四の彼方、

「おじゆうもいはれ、川四の彼方、おじゆうもいはれ、  
川四の彼方、おじゆうもいはれ、川四の彼方、



田代



田代

坂田二水

坂田太久仁

黒木、依然巍峨<sup>（わいがく）</sup>と也、依然わゆむる山也、ひ、萬葉轉か  
は人體<sup>（じんたい）</sup>に也。ここに野外<sup>（のぞの）</sup>教訓<sup>（きょうくん）</sup>也。

（一）  
地圖で黒木町を讀んで、伊豆國の領地

おのれの人也、むるほんかす、たゞと題物<sup>（だいもの）</sup>が、び、

スに黒木。九時神<sup>（くじみこと）</sup>縣<sup>（けん）</sup>也、伊豆國也、美

木に黒木也。八八の御内<sup>（ごうち）</sup>から見<sup>（み）</sup>て黒木、田や

煙草<sup>（えんとう）</sup>にすかへり變<sup>（か）</sup>る。黒木へ着<sup>（つける）</sup>やせや、

必ず黒木變<sup>（か）</sup>る。ハシ<sup>（ハシ）</sup>、金鑑<sup>（きんこう）</sup>、即<sup>（そく）</sup>ち

も黒木<sup>（くろき）</sup>なり。食<sup>（く）</sup>て、植物<sup>（しょくぶつ）</sup>のカーネイバー<sup>（カーネイバー）</sup>が

必ず黒木變<sup>（か）</sup>る。おじかくやがれくとて、黒木

田へ生<sup>（な）</sup>じと題物<sup>（だいもの）</sup>也。

（二）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（三）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（四）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（五）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（六）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（七）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。

（八）  
田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。田<sup>（た）</sup>。



水<sup>（みず）</sup>は、水<sup>（みず）</sup>の鹽屋<sup>（しおや）</sup>を配<sup>（はい）</sup>りし水<sup>（みず）</sup>也。第一、水<sup>（みず）</sup>一  
一、水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。  
水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。  
水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。  
水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。水<sup>（みず）</sup>ニハナタナリ、キハヤツシテナリ。

（一）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（二）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（三）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（四）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（五）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

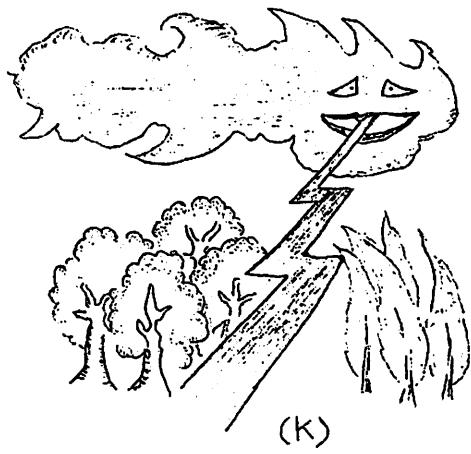
（六）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（七）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

（八）  
水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。水<sup>（みず）</sup>木<sup>（き）</sup>。

美がべつに、この時の雨は、ほんとくびつくりした。見る光がしぶき、じりじりと秒で「ゴロゴロッ、ドーン」と音がしたのに、ほんとうにびつくりした。それがも民家ではなく、一時雨もしながらうなぎやんぐいんつ、虹のとおりだ。雨がやんだあとには、「へじ」となって上って、いくのがわかって、うれしい。五日の朝、天井で「ボタツ、ボタツ」と、う音がするので雨がふっているのかと思つて配した。秋晴に行く時は太陽が出ていたのがかったが、と中、あつかつた、着てから木のかげのおかげでとつもよしかった。

須ナ豆里陵白



はじめは、あまり行えなかつた美がだったけど、やつぱり行って見ると、空気がそれいだつたのが、行ってみた。おかつたと思う。私自身、しんどかったけど楽しむと思つたのは、飯盒すくんだつた。山道を歩んで川で泳いだあと、いい匂いの味は、格別だった。いつも川で泳いだあと、あまり戻れないけど、山の空氣を吸いながら暑い夏でも食欲旺盛にならなかった。電気やガスでいいのとちがつて、これはが出来たが、とてもおいしかった。泳ぐと、う重いものではなかつたが、あの冷たか「下川の水」、なんともいえず気持ちよかった。こんな川を見てみると、神戸の川の水が、おそれく、ひいてる。なじみの木は、ゴニと一緒に流れてもるんだから。この木も、いすれぞくことになるのだろうか、いや、けつして、そんなことにならなかつたと思つ。

長田又浜添通

&lt;8&gt;



### 高倉台小五

米井 誠

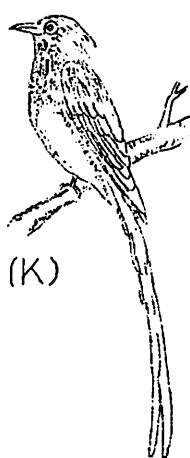
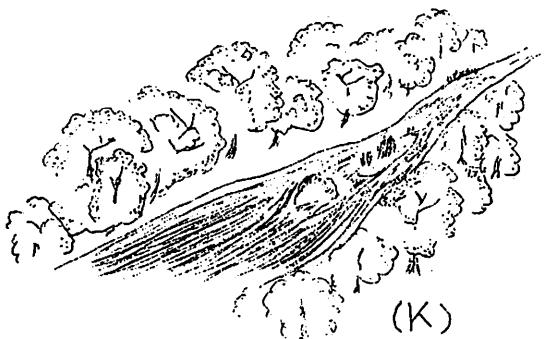
### 霞ヶ丘小四

佐野美津子

<7>

まくは、美方自然教室で一番心に残つたことは、ほんじづすこさん行くんだ、とど。途中の川は、大きく木はかれいで魚もたくさんいました。空気もきれいで、だいへん気持ちがよかったです。しばらく歩いて山の方へ向いました。途中坂道が多く、川で休みました。水をひいてみるといつめたいので涼しき亭で涼さなくつむかうと想いました。冷たいのがんのつてもう入ってからなかつた。長いわざ水のやじに入つてると体温が、しづれました。長いわざ水のやじに入つてると体温が、しづれました。

### 須弥高倉台



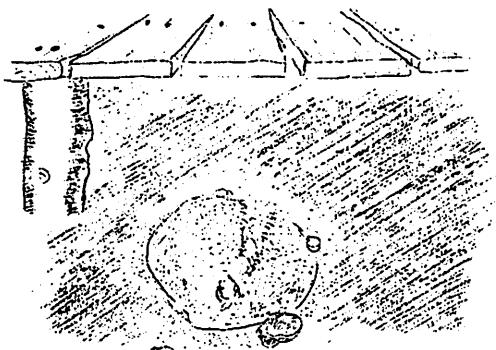
八月四日、ついに美方に来だ。ついにとだんタカ立つがきた。神ヤの方もタカかなつと、分配した。五日、今は自然教室に来た人が多いため、三組に別れて。わたしは秋雨神社に行くことになつた。秋園から帰つてから、少しつと、またタカが立た。おばさん「この」うよく雨がふるの」と聞くと、「四十日ぶり」とつた。神アに雨がふつたら、おひょくしゅうさんたちはつれしだろつた。六日、くすべにはなんうナ、うんじつだ。しばらく川で遊んでみると、桜木さんにつるよがりついた。さうつた。「ひる」はハーブをやつしゃんこにした。人間にひつて血をすくながら、だんだん人体の中に入つて行くやうだ。そいかほぐしうのには、歌でたいたのとちがつて、とてもおもしろかった。

### 桜木区歌敷山

八月四日、ついに美方に来だ。ついにとだんタカ立つがきた。神ヤの方もタカかなつと、分配した。五日、今は自然教室に来た人が多いため、三組に別れて。わたしは秋雨神社に行くことになつた。秋園から帰つてから、少しつと、またタカが立た。おばさん「この」うよく雨がふるの」と聞くと、「四十日ぶり」とつた。神アに雨がふつたら、おひょくしゅうさんたちはつれしだろつた。六日、くすべにはなんうナ、うんじつだ。しばらく川で遊んでみると、桜木さんにつるよがりついた。さうつた。「ひる」はハーブをやつしゃんこにした。人間にひつて血をすくながら、だんだん人体の中に入つて行くやうだ。そいかほぐしうのには、歌でたいたのとちがつて、とてもおもしろかった。

みかたに着いてバスからおりると、雨がパラパラと、ふってきました。途中で大雨になり、お通に一場面ほど雨をどりました。そして、小ぶりになつたので、ほしの駅へ向へと、おなかやんがおまつ来たな、はがほほじとえーとこーと、ほして下へました。おぼせんせ、おふろをあわして待つていて下へたのです。すぐに三人ずつ入りましした。その窓は、11時ごろまで起きて、おひさしだ。なかなかねつかれなかつた。ターフはんをみんな、少しあがめないので、わたくしもまぶとして、少ししか食べさせんでした。夜中におなかが、すいて、ねられず困つた。

朝起きて、山に登りました。山には、お宮一人があり  
て、そのそばで観察しました。見たこともないさるのこしかけ  
といつのがあり、一木は、小さな子どもが、こしがけら  
れるくらいだった。虫の大群も見ました。お宮の、えん  
の下には、アリジジくが、いつぱりありました。田た、  
木の根もとには、ゲジゲジやムカデなどが玉になって、  
いました。三日目の朝に、なんごうすうさんをするため



(K)

6

「山の中の川に行きました。川の水は、冷たく少しつけていましたが、これだけでも、こがりつき涼ました。帰ると、おじさん、おはるんがおもちを作つて下さいました。わたくしたちは、おもちをならべたり、おなこをつけたりしました。おはしかつたです。でも少しがたくて、お皿に、ひつひつと、一コづつでした。夜、公会堂へ集まつて、月や星のこと話をしました。山田さんが月をゆびへして、「みぐるさー、人工衛星です」と、こつたので見ると、目の前に一つ、うごいているのが見えました。すごく速

出来あがり、木の枝をバキバキおつてみると、もくもく

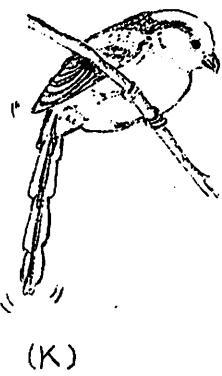
とした煙が目の中へ少しここへ。いたかってけど、今年

はじめでの木の枝の煙だったんで、なんどなく、なつかしかった。じょうへすると出来た。フタを取ったとたん、

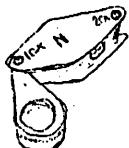
あれ水類と、ため息の連續。それをはず。こげばっかりで、白い粉の方が少なかつた。こげ下粉をスプーンで、「カリカリ」と取つて、る時、食べて時の味はどうだろうか、死なないかなあ、と考えて、あと、おかしかつた。実際たべて見ると「ほかほか」とあたたかく、あんまりにがくもなく、おーしがつた。食べ終つて、まだ遊んだ。水の中へ勢いよく飛び込んだ時、都會でも、どこの國でも、こんな樂しいことが出来ない人に比べたら、わざわざ幸せだなあ。とつくづく感心しました。

西宮市津門西口

した。



(K)



(K)

無水正屋ヶ丘

霞ヶ丘六

河島正和

<5>

美方に来て三日目、待ちに待つた、ほんとうさん

の日、ほんとうさんは初めてなので、どんなことをするのだろうと、心がおどった。見上げれば緑の木々、下は川と、すばらしい環境の中ですることになった。

ほんとうの場所は上流。各自そひがれ、かくや民家のおじさんや、おばさんへ、いただいたとうもろこし、じやがいも、お皿を持って来た。ほんとうはバッキリ。みんなの協力で、うまくだけて、都會の電気、ガスなどでたくの

とちがつて、少しこげが出来た。でも、とてもがっしかつた。何ばくもたべました。あの味、いつまでも忘れられません。他の理もみるながらしく食べられたと思います。リーダーの指導で、仕事の分担で、スムースだったのですが、ほんとうさんはいつもが、よくわから

キャラノノアライマーとやつ最終戦、カーネギーがわかれるとさ、わかれるのが、やがてに、帰りはトーキの火

人丸小六

セヤ・直喜

が消えたので、月や星の光で帰りまーと。須田正萬倉山  
東舞子小六

樋口 治

今年、はじめて美方自然教室にいきました。しなない  
せが、たくさんいたけど、一日で仲よくなっていった。な  
ぜ、こんなに早く仲よくなれたのが、ふしがでしょうが  
なかつた。

瀬見潤子

<4>

美方自然教室から帰って一週間近くたつた。美方では  
今こう何をしてるか、ぼくたちを世話してくれたり、  
ターナーちは、どうしていらかなどと教えてたりまーと。

ぼくは、植物が好きなので、みかた自然教室に参加一

つ目的もありまーと。友だちと一緒に風呂に入り、ヨ

マーティーがねたりまーと。今の日本は、ヘドロ、

そら者、スマッグ、木不足、川からどうがうだへう、

と思つたりもー。ぼくも、おとなになつたら、自然に向

する仕事につとめたいと思つます。垂木区里賀台

城山へ向つて出発した。歩いて、あと五つか六つぐら

いの男の子が、自分の頭ぐらのすいかを持って遊んで

いました。あんなに小さないかを見てのは初めてでし

た。ひと休みして川の中で、木筒を泳ぎました。その時

の水の冷たかっここと。夏の暑さを一瞬、ぬぐつやす

な、身体がフツフツ、と集中につかんで、うつぶせにな

りました。川は、わたしの想像してたのと、まるううう

ちがつていた。底は、かた、岩、深さは肩まであつた

足首まであつた。川のまん中に、す

わつて、川、おしゃりで深川所へ「ドボン!」とも

しないので、「キャラ・キャラ」、「ながり、何回も何回

も、くりかえしました。飯盒するんでは、かまどが、



(M)

神入付属明石小五

須磨えり

やたしは、出発の前夜、興奮してよくおむ水なかつた。それは昨年の樂しかった思いで出で頬もやらな一班の方たちと仲よく出来るでううかと、少し心配だったからです。バスの中でとなりの席の高原さんと、すぐ仲良しなった。高田に着いてからも、みんなと友達になつて、少しほゝとした。そして家のぶどうさんは、わだし達のことじょく気にして下さった。

三日目、近くの川で鮎食水へとーだ。おこげが、た

べきたんださうだが、とてもふーしい。町と比べたら差のあらすがる美しく川は、底が見え餘りとうに冷たい水で、心感さづらやぶるほどだ。夜は天体望遠鏡で木星を見た。約六億三千kmの距離の星が、燃えて、るようだ見えた。朝起は、寒い、くう、ご空気ががこしくて、昨年に増していやほど良いくらいはな」と思った。帰りには、おぼつかないが、「また来でね」と言つた。なんとか人が、「また来てね」と言つた。いなかの人は、がざり氣がつけて、親切でいいなあと思つた。そして補習に近くからつれて、川の水はにこり、あわやゴミが浮いていた

美方のブナの原生林や谷川のサンショウ魚やホタルが、多く育つかず、また善満のトキの木がこゝまでも然然と生びえて、るがう折りたひきがした。垂水正五色山  
(3)



高倉山小四

佐々木祐二

ぼくは、日々多くの知らぬ、人たちと五日間、こゝへくるのが初めてです。食べものや、洗たくや、皆と仲良くできるなど、心配ばかりです。そしてバスの中で、ぼくは知らない人とすれちよつた。でもとなりの人曰、すぐれて「あんた、なんねん」と諷しかけてくれたので、とてもうれしかった。ぼくはすぐに「四年」と返事した、そしてすぐに友だちになつた。

美方へ着いた二日目、秋闇で、ほんとうすくさんを、したと、つめたくて、とてもさわい水でした。これはぐれで、川の水はにこり、あわやゴミが浮いていたが、とてもおしゃいので、びっくりしました。そこで

アヘンの体はトトロの水を、とかみで「ぐんぐん」なものばかり  
んだかあと思つてました。そして、「ドド」と「カーレ」のか  
つに血を吸う虫にハコモでこまりました。このでも、あ  
とが残つています。今、市外の子どもとなつかしくなつ  
てお通ししてます。手紙がきたときも、とてもうれ  
しいです。みかた教室は、ほんとうにかわいだです。来  
年もまた行きたいと思います。

“ 東灘区東崎南町

飾磨小四



赤松秀昭  
(M)

ぼくは、娘とはなれてかやの家にとまるのが初めてな  
ので心配と、たのしみとが入り混じったふくやつら氣持  
で出かけました。泊めてもらつた小林さんの家では飲め  
る母どき水りの水が、すぐ近くまで来ちゃう。その水で  
お茶をひやしたり、べんとうはことあつらつてしまつた  
。ほくの娘(神矢)のアラにも川はあるが、へドロでき  
たなづて、魚ひづらうして泳ぐほどめじれていい。た  
ゞへんがちがこだつた。夜には北斗七星を見ました。ほ  
く、家から北半七星を見たことがなかつたので、び  
つこつと見ました。

姫路市飾磨区北細江

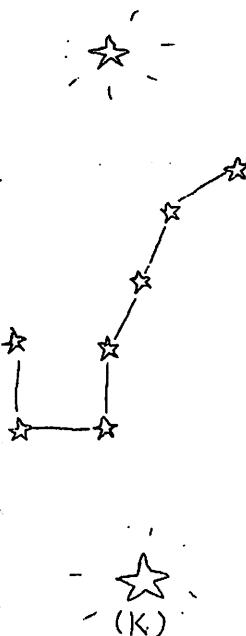
夜になると、電灯に虫がとんで飛んでいた。入って来たの  
口ではなむぐり」という虫でした。



メンテ場にとんできたのはなむぐりは「テシテシレ

「くわしからだ。とてもかわいだなあと思った。来年は  
どうかしょくいだ」と思ひます。姫路市飾磨区北細江  
<2>

飾磨小三



松本吉人  
(K)

ぼくの樂しかったことは、友だちがでられたことです。  
いちばんかくけんかしたのは、とかひら君です、美方町  
ではさうになおかずが出ました。そして五年生の金谷君  
が「じゅうけんで負けたら、ぼくがたべるから、勝った  
ら、ぶきえだべる」とつたので、じゅうけんとして  
ぼくが負けてしまつたので、がまくしてから、なべんど  
豆の天ぷらを食べました。

魚崎小四

吉田一雄

魚崎小四

杉本和美

(1)

神田の村の周りは山に囲まれていて、はじめのうちは東西南北の見当がつかませんでした。神田は盆地のようになってします。都会とちがって、すみ切った空が見え、夜は星が空をうずめるぐらいに良く見えます。

秋のには天然の杉の木と人工の杉の木がありました。

三日目のはんぱうさんは、お米を流した水は全部川の水です。都會の川とちがって、水がのめりきれんな川です。つかられたあとのがんば最高にがんばったです。夜には星座を教えてもらひ、たり天体望遠鏡で木星を見たりしました。今、星の勉強をしているので、とても感激でした。帰ってからも、すぐ天文に興味がわかつたので、天体望遠鏡が欲しくなりました。でも都會では空気がぶじれていて美方の山に、うまく見えないから、だめだらうと思ひます。だから今度の自然教室では、一番先に望遠鏡をのぞいて、やっくり観察してやろうと思ひます。

東灘区魚崎南町

(K)

わたしの班はみんなで三年生と四年生ばかりです。一番最初に友だちになつたのは、末田さんと鯨田さんです。わたしは一人でとても心地よかってから、友だちになれてとてもうれしかった人です。

みかたに着いたときは、すごい大雨でびっくりしました。おちてきそながみなりは、神やでもあんなふうには、なりません。わたしの班の家人は、みやわきさんという人です。わたしはひと目で、「人みだいだな」と思いました。二日目の朝は、いつも9時くらいに起るのに、4時に目がさめました。みかたの木は、氷水みたいに冷たいです。わたしはくわがたやバッタやヨリギスに出会いました。わたしは、かえるを、たらいに入れおさがせました。森さんは、「かえるっていいのか。」といいました。「どうして?」とさくと、「だって好きだとさにおよいで、あらだら草のかげですぐでいいばいもん」といいました。わたしは、「なるほど」と感心しました。夜、虫集めに行つたときの角笛を吹いたが、カイライアしているみたいだなかと風景一同じだった。山田

つみあげ

ゆるじほうくしょ  
作文集

一九七三

